

科目名称	科目区分	学年	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
生化学	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	1	生化学は、生体を構成している生体物質と、生体物質が相互に化学変化する代謝について、分子レベルで研究し、生命現象を解明する学問である。人体において、糖質、脂質、タンパク質、核酸などのいろいろな生体物質とその代謝によって生命活動が維持されていること、さらに最先端領域である遺伝情報の仕組みなど、生化学の基礎的知識を教授し、健康の維持、疾患の原因の理解、疾患を早期発見するための検査、疾患の予防や治療、医薬品の開発との関連について学習する。	1. 生化学の基礎的事項を理解できるようにする。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 糖質、脂質、タンパク質、核酸などの生体物質について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 3. 遺伝情報の仕組みについて理解できるようにする。(自然科学的・臨床医学的知識) 4. 疾病の病因、病態、診断、治療の生化学的要因について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 5. 看護実践の基盤として生化学を学習する必要性を理解し、自らの学習課題を見出し、主体的に学習できる。(研究能力・自己研鑽)	1. 生化学の基礎的事項を概ね理解できるようにする。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 糖質、脂質、タンパク質、核酸などの生体物質について概ね説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 3. 遺伝情報の仕組みについて概ね理解できるようにする。(自然科学的・臨床医学的知識) 4. 疾病の病因、病態、診断、治療の生化学的要因について概ね説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 5. 看護実践の基盤として生化学を学習する必要性を理解し、自らの学習課題を見出すことができる。(研究能力・自己研鑽)
発達心理学	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	1	看護の対象となる人々について、年齢に応じた心の特徴や心の発達の過程、発達の個人差とその背後にある環境等の要因について学ぶことを通じて、対象者の発達段階や個人差に応じたコミュニケーション、環境構成を行うために必要な専門的知識を習得する。	1. 発達段階ごとの心の特徴や心の発達の過程について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 2. 心の発達の個人差について理解し、その個人差を生み出す要因について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 3. 心の発達段階や個人差といった発達心理学の観点から、看護対象者との適切なコミュニケーションのあり方や良好なケア環境の構成について考えることができる。(コミュニケーション能力、看護技術)	1. 発達段階ごとの心の特徴や心の発達の過程について概ね説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 2. 心の発達の個人差について概ね理解し、その個人差を生み出す要因について基本的な事柄を説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 3. 心の発達段階や個人差といった発達心理学の観点から、看護対象者との適切なコミュニケーションのあり方や良好なケア環境の構成について考えることの重要性を理解している。(コミュニケーション能力、看護技術)
微生物学	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	1	看護に関連する各種の病原微生物につき理解を深める。その前提として、微生物学は生物学、生化学、免疫学、感染症学など複数の分野の関連していることから、当該授業においては、まず生物学、生化学の基礎を確認したうえで、微生物学の歴史、微生物の構造と性質について学習する。さらに、免疫学の基礎的な事項を学習し、感染と感染症、感染予防・治療法、病原微生物と感染症などについて学習する。	1. 微生物の構造や増殖様式について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. ヒトの免疫機構の基本を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 3. 主な感染症の種類と特徴および原因微生物について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 4. 感染症の予防や治療の基本的事項について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 5. 看護師として安全な医療活動を行うための微生物学的事項を列挙できる。(自然科学的・臨床医学的知識)	1. 微生物の構造や増殖様式について概ね説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. ヒトの免疫機構の基本を概ね説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 3. 主な感染症の種類と特徴および原因微生物について概ね説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 4. 感染症の予防や治療の基本的事項について概ね説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 5. 看護師として安全な医療活動を行うための微生物学的事項を概ね列挙できる。(自然科学的・臨床医学的知識)
栄養学	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	1	看護においては、対象の健康生活への援助における栄養に関するアセスメント・プランニングは、重要な役割である。本教科においては、この役割を遂行するための基礎となる理論について学ぶ。具体的には、食物の摂取にかかわる生理機能、栄養の吸収・代謝・異化の過程について学習する。さらに、健康障害時における栄養療法について、疾患系統別の食事療法の具体について学び、健康回復に必要な基礎となる知識を修得する。	1. 生命維持に必要な栄養素の消化・吸収・代謝、ライフステージごとの栄養学的特徴を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 食物摂取にかかわる生理機能、吸収・代謝、異化について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 3. 健康の維持および疾病の予防や治療のための食事の役割を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 4. 看護実践の基盤として栄養学を学習する必要性を理解し、自らの学習課題を見出し、主体的に学習できる。(研究能力・自己研鑽)	1. 生命維持に必要な栄養素の消化・吸収・代謝、ライフステージごとの栄養学的特徴を概ね説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 食物摂取にかかわる生理機能、吸収・代謝、異化について概ね説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 3. 健康の維持および疾病の予防や治療のための食事の役割を概ね説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 4. 看護実践の基盤として栄養学を学習する必要性を理解し、自らの学習課題を見出すことができる。(研究能力・自己研鑽)
病理学	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	2	疾病の基本的な原因と発症機序を理解し、人体を構成する細胞、組織、臓器における病変を形態学(肉眼的、顕微鏡的)に基づいて理解する。細胞や組織の基本的な変化を総論で学び、個々の疾患の病理診断を各論で理解することで、病気のなりたち、治療、予防へとつながっていく知識を修得する。細胞、組織、臓器の形態学的変化が疾病となり、その疾病が身体に及ぼす影響を説明できるようにすることを目標とする。	1. 疾病が身体に及ぼす影響や変化について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 人体を構成する細胞、組織、臓器の病変を、形態学的な視点から疾病ごとに説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 3. 疾病の最終診断である病理診断(病理学)の知識が看護実践の基盤となることを理解し、自らの学習課題を見出し、主体的に学習できる。(研究能力・自己研鑽)	1. 疾病が身体に及ぼす影響や変化について概ね説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 人体を構成する細胞、組織、臓器の病変や成り立ちを、形態学的な視点から概ね説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 3. 看護実践の基盤として病理学を学習する必要性を理解し、自らの学習課題を見出すことができる。(研究能力・自己研鑽)
薬理学	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	2	適正かつ安全な薬物療法に貢献できる様になるため、薬物の体内動態、作用機序、有害作用に関する基本的事項を学習した後、各種疾患の薬物療法の概要、代表的な治療薬と有害作用、さらには、これら治療薬の適正な使用方法および副作用の回避法について紹介する。また、薬剤の管理法についても学習する。	1. 薬物療法における薬物体内動態や作用機序について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 適切な薬物療法を行うための実践的な薬の使用法について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 3. 看護実践の基盤として薬理学を学習する必要性を理解し、自らの学習課題を見出し、主体的に学習できる。(研究能力・自己研鑽)	1. 薬物療法における薬物体内動態や作用機序について概ね説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 適切な薬物療法を行うための実践的な薬の使用法について概ね説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 3. 看護実践の基盤として薬理学を学習する必要性を理解し、自らの学習課題を見出すことができる。(研究能力・自己研鑽)
解剖生理学I	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	2	解剖生理学は人体の構造(解剖学)と機能(生理学)を融合し、系統的に学ぶ学問である。ヒトの体や構成している各器官がどのように構成され、またどのように働くかを探索し、ヒトが生きていくためにどのような営みをしているかを学ぶ。解剖生理学Iでは、細胞・組織・遺伝子、基本的人体の構造、細胞膜の構造とその働き、循環系、消化器系、呼吸器系、栄養・代謝を学ぶ。	1. 人体を構成する細胞、組織を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 外皮系・呼吸器系・循環器系・消化器系に関する人体の構造と機能を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 3. 看護実践の基盤として解剖生理学を学習する必要性を理解し、自らの学習課題を見出し、主体的に学習できる。(研究能力・自己研鑽)	1. 人体を構成する細胞、組織を概ね説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 外皮系・呼吸器系・循環器系・消化器系に関する人体の構造と機能を概ね説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 3. 看護実践の基盤として解剖生理学を学習する必要性を理解し、自らの学習課題を見出すことができる。(研究能力・自己研鑽)
解剖生理学II	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	2	解剖生理学は人体の構造(解剖学)と機能(生理学)を融合し、系統的に学ぶ学問である。ヒトの体や構成している各器官がどのように構成され、またどのように働くかを探索し、ヒトが生きていくためにどのような営みをしているかを学ぶ。解剖生理学IIでは、血液・体液・免疫系、神経・感覚器系、腎臓・泌尿器系、内分泌系、体温調節、成長と老化を学ぶ。	1. 骨格系・筋系・内分泌・泌尿器系・生殖系、代謝系・神経系・感覚系および免疫系に関する人体の構造と機能を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 看護実践の基盤として解剖生理学を学習する必要性を理解し、自らの学習課題を見出し、主体的に学習できる。(研究能力・自己研鑽)	1. 骨格系・筋系・内分泌・泌尿器系・生殖系、代謝系・神経系・感覚系および免疫系に関する人体の構造と機能を概ね説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 看護実践の基盤として解剖生理学を学習する必要性を理解し、自らの学習課題を見出すことができる。(研究能力・自己研鑽)
病態と治療I(臓器疾患)	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	2	呼吸器、循環器、消化器、腎臓、脳などの各臓器の特性を理解し、それぞれの疾患についての病因、病態、診断、治療についての基礎的知識を修得する。具体的には、呼吸器、循環器、消化器、腎臓、脳などの各臓器の特性、各臓器の疾患の発生機序と病態および症状、各疾患の検査、診断、治療について理解する。	1. 呼吸器、循環器、消化器、腎臓、脳などの各臓器の特性について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 各臓器の疾患の発生機序と病態、症状について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 3. 各疾患の検査、診断、治療について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 4. 各疾患に関する医学的知識の必要性を理解し、自らの学習課題を見出し、主体的に学習できる。(研究能力・自己研鑽)	1. 呼吸器、循環器、消化器、腎臓、脳などの各臓器の特性について、大まかに説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 各臓器の疾患の発生機序と病態、症状について、大まかに説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 3. 各疾患の検査、診断、治療について、大まかに説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 4. 各疾患に関する医学的知識の必要性を理解し、自らの学習課題を見出すことができる。(研究能力・自己研鑽)
病態と治療II(全身システム疾患)	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	2	2	内分泌・代謝系、脳神経系、感染症、免疫・アレルギー系、血液系疾患の病因、病態、診断、治療について基礎的知識を修得する。	1. 内分泌・代謝系、脳神経系、感染症、免疫・アレルギー系、血液系などの系統的システムについて説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 各疾患の発生機序と病態について説明ができる。(自然科学的・臨床医学的知識) 3. 各疾患の検査、診断、治療について説明ができる。(自然科学的・臨床医学的知識) 4. 各疾患に関する医学的知識の必要性を理解し、自らの学習課題を見出し、主体的に学習できる。(研究能力・自己研鑽)	1. 内分泌・代謝系、脳神経系、感染症、免疫・アレルギー系、血液系などの系統的システムについて概ね説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 各疾患の発生機序と病態について基本的な説明ができる。(自然科学的・臨床医学的知識) 3. 各疾患の検査、診断、治療について基本的な説明ができる。(自然科学的・臨床医学的知識) 4. 各疾患に関する医学的知識の必要性を理解し、自らの学習課題を見出すことができる。(研究能力・自己研鑽)
病態と治療III(老年科疾患)	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	2	1	高齢者の身体の構造と機能の特徴を理解し、老年科疾患の発生機序と病態・診断・治療についての基礎的知識を修得する。	1. 加齢と老化のメカニズムについて説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 高齢者に生じやすい疾患の病態・診断・治療について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 3. 老年看護実践において必要とされる医学的知識を理解し、自身の学習課題と関連づけながら主体的に学習できる。(研究能力・自己研鑽)	1. 加齢と老化のメカニズムを概ね説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 高齢者に生じやすい主要な疾患について、その病態・診断・治療を概ね説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 3. 老年看護実践において必要とされる医学的知識に関する自身の学習課題を表現できる(研究能力・自己研鑽)

科目名称	科目区分	学年	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
病態と治療Ⅳ (産婦人科疾患)	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	2	1	女性および妊娠・分娩・産褥期の母子の身体の構造と機能を理解し、女性生殖器官および妊娠・分娩・産褥期の母子の異常の発生機序と病態・診断・治療についての基礎的知識を修得する。	1. 女性生殖器官の構造と機能、異常の発生機序・病態・診断・治療について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 妊娠・分娩・産褥における母子の身体の構造と機能、異常の発生機序と病態・診断・治療について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 3. 産婦人科領域における医学的知識の必要性を理解し、自らの学習課題を見出し、主体的に学習できる。(研究能力・自己研鑽)	1. 女性生殖器官の構造と機能、異常の発生機序・病態・診断・治療について、概ね説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 妊娠・分娩・産褥における母子の身体の構造と機能、異常の発生機序と病態・診断・治療について、概ね説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 3. 産婦人科領域における医学的知識の必要性を理解し、自らの学習課題を見出すことができる。(研究能力・自己研鑽)
病態と治療Ⅴ (小児科疾患)	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	2	1	先天性疾患や小児期によくみられる疾患について基礎的知識を修得する。各発達期の身体的特徴と疾患について、病因、病態、症状、検査、および治療について学習するとともに、小児科診療の現状を理解する。これらにより、小児看護学の学習に必要な小児医学の知識を理解する。	(1) 新生児期から思春期までの小児各期における発育の特徴を系統的に説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (2) 主な先天性疾患の病因、病態、および症状について系統的に説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (3) 主な先天性疾患の検査・治療について概観をふまえて説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (4) 小児期に罹患しやすい疾患の病因・病態、および症状について系統的に説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (5) 小児期に罹患しやすい疾患の検査・治療について概観をふまえて説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (6) 小児看護における医学的知識の必要性を意味づけし、自身の学習課題が挙げられる。(研究能力・自己研鑽)	(1) 新生児期から思春期までの小児各期における発育の基本的な特徴を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (2) 主な先天性疾患の病因、病態、および症状について基本事項が説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (3) 主な先天性疾患の検査・治療について基本事項が説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (4) 小児期に罹患しやすい疾患の病因・病態、および症状について基本事項が説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (5) 小児期に罹患しやすい疾患の検査・治療について基本事項が説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (6) 小児看護における医学的知識の必要性を意味づけして述べられる。(研究能力・自己研鑽)
病態と治療Ⅵ (精神科系疾患)	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	1	精神機能とその障がいについて理解し、特徴的な精神疾患について、その発生機序・病態・診断・治療に関する精神医学の基礎的な知識を修得する。精神機能とその障がいについて説明できるようになること、特徴的な精神疾患についての発生機序・病態について説明できるようになること、特徴的な精神疾患についての診断・治療についての知識を取得する。	1. 精神機能とその障がいについて説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 特徴的な精神科疾患についての発生機序・病態について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 3. 特徴的な精神科疾患についての診断・治療について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 4. 精神看護において必要とされる医学的知識を理解し、自身の学習課題と関連づけながら主体的に学習できる。(研究能力・自己研鑽)	1. 精神機能とその障がいについて大まかに説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 特徴的な精神科疾患についての発生機序・病態について大まかに説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 3. 特徴的な精神科疾患についての診断・治療について大まかに説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 4. 精神看護において必要とされる医学的知識を理解し、自身の学習課題を述べるができる。(研究能力・自己研鑽)
看護倫理	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	3	1	看護職としての倫理的意思決定や看護実践の現場における倫理的諸問題の解決に必要な基礎的知識や理論を学ぶ。具体的には、看護倫理の歴史の変遷、概念、倫理をめぐる諸理論、倫理の行動基準、看護師の倫理綱領、専門職の責務、アドボカシー、看護師の倫理的ジレンマ等について修得する。授業においては、看護実践の現場から提起される倫理的問題、他職種間の倫理調整についての事例を取り上げ、倫理的諸問題に対する対処法や解決法を検討し、考察する。	1. 看護倫理の歴史の変遷について説明できるようになる。(倫理観・自律性) 2. 倫理に関連する理論について理解できるようになる。(倫理観・自律性) 3. 倫理の行動基準、看護師の倫理綱領について説明できるようになる。(倫理観・自律性) 4. 専門職の責務、アドボカシーについて説明できるようになる。(倫理観・自律性) 5. 看護実践の基盤として看護倫理を学ぶ必要性を理解し、自らの学習課題を見出し、主体的に学習できる。(研究能力・自己研鑽)	1. 看護倫理の歴史の変遷について概ね説明できるようになる。(倫理観・自律性) 2. 倫理に関連する理論について概ね理解できるようになる。(倫理観・自律性) 3. 倫理の行動基準、看護師の倫理綱領について概ね説明できるようになる。(倫理観・自律性) 4. 専門職の責務、アドボカシーについて概ね説明できるようになる。(倫理観・自律性) 5. 看護実践の基盤として看護倫理を学ぶ必要性を理解し、自らの学習課題を見出すことができる。(研究能力・自己研鑽)
看護学概論	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	2	看護学の導入に位置づけられる科目であり、看護の主要な概念について多角的に探究する科目である。看護の対象となる人々生活者ととらえ、健康とは何か、環境とは何か、看護とは何かについて学習する。高い倫理観に基づき生活者の権利を擁護する意味について学び、看護の対象に応じたケアの必要性やコミュニケーションの重要性について理解する。具体的には、看護・看護学の歴史的發展過程、看護実践を導くための理論的根拠となる看護理論について学ぶ。また、災害といった今日の課題にも触れる。これらの学びを通して、看護・看護学について自ら主体的に考え、いくための土台を形成する。また、発展的な学習姿勢の基礎をつくる。	1) 看護を構成する主要要素(生活者、健康、環境、看護)について明確に説明できるようになる。(人間科学的・社会医学的知識) 2) 看護の歴史の変遷を概観し、看護と社会のかかわりや看護の専門性について明確に説明できるようになる。(人間科学的・社会医学的知識) 3) 主要な看護理論について明確に説明できるようになる。 4) 看護の機能と役割、ならびに看護に関係する法や教育制度を説明できるようになる。(人間科学的・社会医学的知識) 5) 看護の役割と機能について明確に説明できるようになる。(コミュニケーション能力・看護技術) 6) 看護活動において必要な基礎的概念(看護過程、安全、看護管理ほか)について明確に説明できるようになる。(コミュニケーション能力・看護技術) 7) 保健医療福祉システムとチーム医療の概要について明確に説明できるようになる。(多職種・多機関連携)(チームワーク・リーダーシップ) 8) 看護職に求められる倫理について、自分の考えを明確に述べるようになる。(倫理観、自律性)	1) 看護を構成する主要要素(看護、生活者、健康、環境)について、大まかに述べるができるが不足も多い。(人間科学的・社会医学的知識) 2) 看護の歴史の変遷を概観し、看護の専門性について大まかに述べることができるが不足も多い。(人間科学的・社会医学的知識) 3) 主要な看護理論についておまかに述べることができるが不足も多い。(人間科学的・社会医学的知識) 4) 看護に関係する法や教育制度について大まかに述べるができるが不足も多い。(人間科学的・社会医学的知識) 5) 基本的な看護の機能と役割、について大まかに述べるができるが不足も多い。(人間科学的・社会医学的知識) 6) 看護活動に関する基礎的概念(看護過程、安全、看護管理ほか)の構成要素について大まかに述べることができるが不足も多い。(コミュニケーション能力・看護技術) 7) 保健医療福祉におけるチーム医療の概要を大まかに述べるができるが不足も多い。(多職種・多機関連携)(チームワーク・リーダーシップ) 8) 看護職に求められる倫理について、大まかに述べるができるが不足も多い。(倫理観、自律性)
人間関係論	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	1	ケアの対象を包括的にとらえ、ケアの対象者ならびに関係者との良好な人間関係を築くための、関連学領域を含めた幅広い専門的知識を習得する。また、効果的な支援を実施するための自己理解、他者理解、コミュニケーションに関する知識、技術について、講義や学生同士で行う演習等を通じて習得する。	1.あらゆる健康状態にあるケアの対象の把握のために必要な幅広い知識を習得し、その活用について自分の意見を述べるができる。(コミュニケーション能力、看護技術) 2.自己理解、他者理解を深めるための方法について習得し、その活用について自分の意見を述べるができる。(コミュニケーション能力、看護技術) 3.援助的なコミュニケーションに関する知識と技術を習得し、その活用について自分の意見を述べることができる。(コミュニケーション能力、看護技術) 4.専門職、社会人として貢献していくために、学習内容を活用する方法について、自分の意見を述べることができる。(コミュニケーション能力、看護技術) 5.専門職として、援助の対象への尊敬と権利の擁護に基づいた援助関係について、自分の意見を述べることができる。(コミュニケーション能力、看護技術)(倫理観、自律性)	1.あらゆる健康状態にあるケアの対象の把握のために必要な幅広い知識を習得し、その基本的な内容を説明することができる。(コミュニケーション能力、看護技術) 2.自己理解、他者理解を深めるための方法について習得し、その基本的な内容を説明することができる。(コミュニケーション能力、看護技術) 3.援助的なコミュニケーションに関する知識と技術を習得し、その基本的な内容を説明することができる。(コミュニケーション能力、看護技術) 4.専門職、社会人として貢献していくために、学習内容を活用する方法について考えることができる。(コミュニケーション能力、看護技術) 5.専門職として、援助の対象への尊敬と権利の擁護に基づいた援助関係について考えることができる。(コミュニケーション能力、看護技術)(倫理観、自律性)
看護英語	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	2	1	看護・医療に関連する様々な場面において使用される英語表現について、基本的な知識とコミュニケーション能力を修得する。	1. 看護・医療に関する英語表現を使い、コミュニケーションができるようになる。(コミュニケーション能力、看護技術) 2. 英語で話す力・書く力・聴く力を修得し、医療現場に必要なコミュニケーション能力を高めることができる。(コミュニケーション能力、看護技術) 3. 看護実践の基盤として看護英語を学ぶ必要性を理解し、自らの学習課題を見出し、主体的に学習できる。(コミュニケーション能力、看護技術)	1. 看護・医療に関する英語表現を使い、初歩的なコミュニケーションができるようになる。(コミュニケーション能力、看護技術) 2. 英語で話す力・書く力・聴く力を修得し、医療現場に必要なコミュニケーション能力を高めることができる。(コミュニケーション能力、看護技術) 3. 看護実践の基盤として看護英語を学ぶ必要性を理解し、自らの学習課題を見出すことができる。(コミュニケーション能力、看護技術)
ふれあい実習	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	1	特別養護老人ホーム、訪問看護ステーション、助産所、乳児院、就労支援継続事業所など病院以外の現場での体験、並びに住民・当事者活動への参加を通して、看護職の担うべき生活者の多面性を理解するとともに、従事者・住民・利用者に接する際に求められる基本的な態度を修得する。	1. 実習施設を規定している制度、並びに実習施設の機能について、多様な資料を用いて探索し、説明することができる。(多職種・多機関連携)(社会資源の活用・開発) 2. 従事者・住民・利用者から受け入れられる、実習生としての社会性・倫理観を備えた態度をとることができる。(コミュニケーション能力・看護技術)(倫理観、自律性) 3. 人々の暮らしや地域の諸資源の活用・交流に深い関心を寄せ、質問や意見を発することができる。(コミュニケーション能力、看護技術)(社会資源の活用・開発)(チームワーク、リーダーシップ)	1. 実習施設を規定している制度、並びに実習施設の機能の概観を説明できる。(多職種・多機関連携)(社会資源の活用・開発) 2. 従事者・住民・利用者を受け入れられる、実習生としての基本的態度をとることができる。(コミュニケーション能力・看護技術)(倫理観、自律性) 3. 人々の暮らしや資源の活用に関心を持って、相手の話を聞くことができる。(コミュニケーション能力、看護技術)(社会資源の活用・開発) 3. グループ活動を通して、生活、生活者、地域、資源など重要概念に対する理解を深めることができる。(人間科学的・社会医学的知識)(チームワーク、リーダーシップ)
多職種連携論	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	2	1	保健医療福祉分野において多職種連携が必要とされる社会的背景、看護職が連携する様々な職種との役割・機能について理解を深めるとともに、多職種連携の展開方法と実際について理解する。また、看護実践における多職種連携の重要性や多職種連携における看護職の役割について理解する。	1. 看護実践における多職種連携の重要性について述べるができる。(人間科学的・社会医学的知識)(多職種・多機関連携) 2. 看護職が連携する様々な職種の特性について述べるができる。(人間科学的・社会医学的知識)(多職種・多機関連携) 3. 多職種連携における看護職の役割について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識)(多職種・多機関連携)	1. 看護実践における多職種連携について基本的な事項を述べることができる。(人間科学的・社会医学的知識)(多職種・多機関連携) 2. 看護職が連携する様々な職種の基本的な事項を述べることができる。(人間科学的・社会医学的知識)(多職種・多機関連携) 3. 多職種連携における看護職の役割について基本的な事項を説明できる。(人間科学的・社会医学的知識)(多職種・多機関連携)

科目名称	科目区分	学年	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
看護統計	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	2	1	科学的な根拠に基づく看護 (EBN: Evidence Based Nursing) を実現するために、統計学は必須のものである。医療場面で求められる統計として、記述統計、推測統計、統計手法の活用方法、結果の解釈について学習する。	1. 医療情報の活用方法、サンプリングにつき説明できるようになる。(人間科学的・社会医学的知識) 2. 統計の種類、解釈、解釈につき説明できるようになる。(人間科学的・社会医学的知識) 3. 看護実践の基盤として統計学を学ぶ必要性を理解し、自らの学習課題を見出し、主体的に学習できる。(研究能力・自己研鑽)	1. 医療情報の活用方法、サンプリングにつき概ね説明できるようになる。(人間科学的・社会医学的知識) 2. 統計の種類、解釈、解釈につき概ね説明できるようになる。(人間科学的・社会医学的知識) 3. 看護実践の基盤として統計学を学ぶ必要性を理解し、自らの学習課題を見出すことができる。(研究能力・自己研鑽)
保健医療福祉行政論 I	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	2	社会保障の定義、体系、目的を学び、社会保障のうち特に、医療保険制度、介護保険制度、障害者支援制度、難病対策、生活保護制度等の意義・目的、基本的な枠組みを学習する。また、わが国の公衆衛生行政のしくみと役割、実施体制について学習する。合わせて、わが国の社会保障の課題と看護職の役割を検討する。	1. 社会保障に関する基礎的な知識を具体的に述べるができる。(人間科学的・社会医学的知識) 2. 主要な社会保障制度の枠組みと課題について具体的に述べるができる。(人間科学的・社会医学的知識) 3. 公衆衛生行政のしくみと役割、実施体制に関する基礎的な知識を具体的に述べるができる。(人間科学的・社会医学的知識) 4. 社会保障における看護職の役割を説明することができる。(人間科学的・社会医学的知識) 5. 看護実践の基盤として保健医療福祉行政論を学ぶ必要性を理解し、自らの学習課題を具体的に述べるとともに、主体的に学習を進めることができる(研究能力・自己研鑽)	1. 社会保障に関する基礎的な知識を具体的に述べることができる。(人間科学的・社会医学的知識) 2. 主要な社会保障制度の枠組みと課題について、基本的な事項を述べることができる。(人間科学的・社会医学的知識) 3. 公衆衛生行政のしくみと役割、実施体制に関する基礎的な知識を具体的に述べるができる。(人間科学的・社会医学的知識) 4. 社会保障における看護職の役割を考慮することができる。(人間科学的・社会医学的知識) 5. 看護実践の基盤として保健医療福祉行政論を学ぶ必要性を理解し、自らの学習課題を述べるができる(研究能力・自己研鑽)
保健統計	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	1	公衆衛生の各分野に関連する保健統計の指標と基盤となる調査について学習する。また、公衆衛生の各分野における健康水準の変遷と施策がどのように関連しているのかについて学習する。	1. 人口動態・動態統計の指標と基幹調査について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 2. 公衆衛生の各分野の保健統計指標から見た健康水準の変遷について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 3. 公衆衛生の各分野の保健統計指標から見た健康水準と我が国の施策の関連について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 4. 看護実践の基盤として保健統計を学ぶ必要性を理解し、自らの学習課題を見出し、主体的に学習できる。(研究能力・自己研鑽)	1. 人口動態・動態統計の指標について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 2. 公衆衛生の各分野の保健統計指標から見た現在の健康水準について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 3. 公衆衛生の各分野の保健統計指標と我が国の施策の関連について概ね説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 4. 看護実践の基盤として保健統計を学ぶ必要性を理解し、自らの学習課題を見出すことができる。(研究能力・自己研鑽)
疫学 I	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	1	1	集団における健康課題の原因となる環境因子との関係を査定する疫学の基礎を学習する。また、感染症対策を通じて、公衆衛生活動における疫学調査の活用方法について学習する。	1. 疫学の調査方法、指標、推論法について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 2. 疾病のスクリーニングの方法と指標について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 3. 感染症対策における疫学調査の実施方法とデータの活用方法について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 4. 看護実践の基盤として疫学を学ぶ必要性を理解し、自らの学習課題を見出し、主体的に学習できる。(研究能力・自己研鑽)	1. 疫学の調査方法、指標、推論法について概ね説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 2. 疾病のスクリーニングの方法と指標について概ね説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 3. 感染症対策における疫学調査の実施方法とデータの活用方法について概ね説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 4. 看護実践の基盤として疫学を学ぶ必要性を理解し、自らの学習課題を見出すことができる。(関心・意欲・態度)
疫学 II	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	3	1	疫学 I で学習した疫学の基礎を踏まえ、人口動態統計、人口動態統計、各種保健統計から、集団の健康状態を査定し、課題を明らかにする方法を学習する。	1. 各種統計資料等から、集団の健康状態を査定する方法を修得する。(人間科学的・社会医学的知識) (研究能力・自己研鑽) 2. 特定集団の健康課題や疾病と関連要因の因果関係を推論するプロセスについて説明することができる。(人間科学的・社会医学的知識) (研究能力・自己研鑽) 3. 公衆衛生看護活動において、疫学的手法を修得する意義について考えることができる。(研究能力・自己研鑽)	1. 各種統計資料等から、集団の健康状態を査定する方法について概ね修得する。(人間科学的・社会医学的知識) (研究能力・自己研鑽) 2. 特定集団の健康課題や疾病と関連要因の因果関係を推論するプロセスについて概ね説明することができる。(人間科学的・社会医学的知識) (研究能力・自己研鑽) 3. 公衆衛生看護活動において、疫学的手法を修得する意義について考えることができる。(研究能力・自己研鑽)
基礎看護学実習 I	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	1	1	看護職や看護の場の見学および体験を通して、看護の役割と機能を理解するとともに、対象の権利を擁護する重要性やコミュニケーション能力および看護技術の向上の必要性を理解し、看護実践者としての基礎を築く。	1. 最小限の支援を得ながら、さまざまな健康障害をもつ対象の健康上の課題についてアセスメントができる。(アセスメント力、実践力) 2. 最小限の支援を得ながら、思考過程を他者にもわかるように論理的に表現できる。(アセスメント力、実践力) 3. 最小限の支援を得ながら、科学的根拠に基づいた看護を理解し、対象に応じたコミュニケーションと個別的安全な援助が実施できる。(コミュニケーション能力、看護技術) 4. 最小限の支援を得ながら、簡潔に報告・連絡・相談ができるようになる。(コミュニケーション能力、看護技術) 5. 最小限の支援を得ながら、対象者への倫理的配慮ができる。(倫理観、自律性) 6. 支援を得なくても、自律的な学習態度と看護学生としてふさわしい態度が身についている。(倫理観、自律性) 7. 実習グループのメンバーと協働し実習目標を達成できるよう主体的に行動できる。(チームワーク、リーダーシップ)	1. かなりの支援を得ながら、さまざまな健康障害をもつ対象の健康上の課題についてアセスメントができるが不足も多い。(アセスメント力、実践力) 2. かなりの支援を得ながら、思考過程を他者にもわかるように論理的に表現できるが不足も多い。(アセスメント力、実践力) 3. かなりの支援を得ながら、科学的根拠に基づいた看護を理解し、対象に応じたコミュニケーションと個別的安全な援助が実施できる。(コミュニケーション能力、看護技術) 4. かなりの支援を得ながら、報告・連絡・相談ができるが不足も多い。(コミュニケーション能力、看護技術) 5. かなりの支援を得ながら、対象者への倫理的配慮ができるが不足を指摘されることも多い。(倫理観、自律性) 6. かなりの支援を得て学習課題に向き合い、看護学生としてふさわしい態度の必要性は理解することができるが不足を指摘されることが多い。(倫理観、自律性) 7. 実習グループのメンバーと協働し実習目標を達成できるよう努力できる。(チームワーク、リーダーシップ)
基礎看護学実習 II	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	2	2	さまざまな健康障害を抱えながら入院生活を送る対象者を受け持ち、総合的な視点から理解し、看護過程展開の考え方に基いて、対象者の権利を擁護しつつ、対象に応じたコミュニケーションを駆使して、安全で安心できる看護の必要性を理解する。	1. 最小限の支援を得ながら、さまざまな健康障害をもつ対象の健康上の課題についてアセスメントができる。(アセスメント力、実践力) 2. 最小限の支援を得ながら、思考過程を他者にもわかるように論理的に表現できる。(アセスメント力、実践力) 3. 最小限の支援を得ながら、科学的根拠に基づいた看護を理解し、対象に応じたコミュニケーションと個別的安全な援助が実施できる。(コミュニケーション能力、看護技術) 4. 最小限の支援を得ながら、簡潔に報告・連絡・相談ができるようになる。(コミュニケーション能力、看護技術) 5. 最小限の支援を得ながら、対象者への倫理的配慮ができる。(倫理観、自律性) 6. 支援を得なくても、自律的な学習態度と看護学生としてふさわしい態度が身についている。(倫理観、自律性) 7. 支援を得なくても、自律的な学習態度と看護学生としてふさわしい態度が身についている。(倫理観、自律性) 7. 実習グループのメンバーと協働し実習目標を達成できるよう主体的に行動できる。(チームワーク、リーダーシップ)	1. かなりの支援を得ながら、さまざまな健康障害をもつ対象の健康上の課題についてアセスメントができるが不足も多い。(アセスメント力、実践力) 2. かなりの支援を得ながら、思考過程を他者にもわかるように論理的に表現できるが不足も多い。(アセスメント力、実践力) 3. かなりの支援を得ながら、科学的根拠に基づいた看護を理解し、対象に応じたコミュニケーションと個別的安全な援助が実施できる。(コミュニケーション能力、看護技術) 4. かなりの支援を得ながら、報告・連絡・相談ができるが不足も多い。(コミュニケーション能力、看護技術) 5. かなりの支援を得ながら、対象者への倫理的配慮ができるが不足を指摘されることも多い。(倫理観、自律性) 6. かなりの支援を得て学習課題に向き合い、看護学生としてふさわしい態度の必要性は理解することができるが不足を指摘されることが多い。(倫理観、自律性) 7. 実習グループのメンバーと協働し実習目標を達成できるよう努力できる。(チームワーク、リーダーシップ)
基礎看護技術論	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	1	1	看護実践に共通する看護技術の原理原則として、援助的人間関係の形成に必要な知識・技術・態度、安全・安楽について学ぶ。援助的人間関係の形成に必要な基本的なコミュニケーション技術を修得できるようになると、感染予防の原理原則としてのスタンダードプリコーションが実施できるようになると、基本的な身体環境の整備技術の身に付けることを目標とする。	1. 援助的人間関係の形成に必要な基本的なコミュニケーション技術を修得できる。(コミュニケーション能力、看護技術) 2. 衛生的な手洗い、擦式手指消毒法、個人防護具の着脱が1人で実施できる。(コミュニケーション能力、看護技術) 3. 臥床患者の左右水平移動、上方水平移動をボディメカニクスを活用して1人で実施できる。(コミュニケーション能力・看護技術) 4. 臥床患者のリネン交換が実施できる。(コミュニケーション能力、看護技術) 5. ボディメカニクスの基本原理のうち8項目を説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) 6. 演習やグループワークにより、看護に必要なチームワークやリーダーシップの重要性を説明することができる。(チームワーク・リーダーシップ)	1. 援助的人間関係の形成に必要な基本的なコミュニケーション技術を述べることができる。(コミュニケーション能力、看護技術) 2. 助言を得て衛生的な手洗い、擦式手指消毒法が1人で実施できる。(コミュニケーション能力、看護技術) 3. 臥床患者の左右水平移動、上方水平移動を実施できる。(コミュニケーション能力、看護技術) 4. ベッドメイキングができる。(コミュニケーション能力・看護技術) 5. ボディメカニクスの基本原理のうち4項目を述べられる。(コミュニケーション能力・看護技術) 6. 助言を得ることにより演習やグループワークを通して、看護に必要なチームワークやリーダーシップを理解することができる。(チームワーク・リーダーシップ)

科目名称	科目区分	学年	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
ヘルスアセスメント論	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	1	1	人間の健康問題について、主観的情報および客観的情報に基づき総合的にアセスメントし、健康にかかわる問題を明らかにするプロセスを学ぶ。看護におけるヘルスアセスメントの意義を説明できるようにすること、患者の身体・心理面・社会面の状態を明らかにするためのデータ収集・整理・分析を学習すること、呼吸器系、循環器系、消化器系を中心とした系統的なフィジカルアセスメントが実施できるようにすることを目標とする。	1. ヘルスアセスメントとは何を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 呼吸器系、循環器系、消化器系を中心とした系統的なフィジカルアセスメントが実施できる。(アセスメント力、実践力) 3. 演習で実施したフィジカルアセスメントの結果を適切に記録し、アセスメントできる。(アセスメント力、実践力) 4. バイタルサイン測定が実施できる。(アセスメント力、実践力) 5. 演習時、患者役の発熱心に配慮した言動ができる。(コミュニケーション能力・看護技術)	1. ヘルスアセスメントとは何かを助言を受けて説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 呼吸器系、循環器系、消化器系を中心とした系統的なフィジカルアセスメントが助言を受けて実施できる。(アセスメント力、実践力) 3. 演習で実施したフィジカルアセスメントの結果を適切に記録できる。(アセスメント力、実践力) 4. 血圧測定が実施できる。(アセスメント力、実践力) 5. 助言を得て、演習時患者役の発熱心に配慮しようとして行動できる。(コミュニケーション能力・看護技術)
看護過程展開論	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	2	1	看護実践において基本となる看護過程の展開について理解する。対象の健康問題を解決するために必要な、アセスメント、看護過程の明確化、看護計画立案、実施、評価の基本となる一連のプロセスについて「問題解決思考と行動」の観点から理解し、実践できるようにする。また、看護過程を支える様々な看護理論についても理解を深め、対象の置かれている状況や場面に応じた、適切な理論を活用して看護過程が展開できるよう演習を通して学ぶ。	1. 看護過程を構成する要素とそのプロセスおよびアセスメントの構造を述べることができる。(アセスメント力、実践力) 2. 看護実践における看護過程を用いる意義のうち、3つを説明することができる。(アセスメント力、実践力) 3. 問題解決過程やクリティカルシンキング、情報分析方法、倫理的判断等、看護過程の基盤となる考え方を他者に説明できる。(アセスメント力・実践力) 4. 事例の看護過程の展開が実施できる。(アセスメント力・実践力) 5. 3つの看護問題に対し科学的根拠に基づいた看護計画が立案できる(自然科学的・臨床医学的知識)	1. 看護過程を構成する要素とそのプロセスを助言を受けて述べるができる。(アセスメント力、実践力) 2. 看護実践における看護過程を用いる意義を助言を受けて述べるができる。(アセスメント力、実践力) 3. 助言を受けて、問題解決過程やクリティカルシンキング、情報分析方法、倫理的判断等、看護過程の基盤となる考えを述べることができる。(アセスメント力、実践力) 4. 助言を受けながら事例の看護過程の展開ができる。(アセスメント力、実践力) 5. 助言を受けながら、1つの看護問題に対し科学的根拠に基づいた看護計画が立案できる(自然科学的・臨床医学的知識)
日常生活援助技術論I	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	1	1	看護の対象者が健康状態に応じた日常生活を営めるよう、「活動と休息」「食事」の日常生活行動に関する欲求を充足する援助に必要な基本的知識・技術・態度を、講義および演習を通して身につける。演習ではグループメンバーが患者・看護師役割を取りながら模擬病床上で援助技術を実施する。	1. 活動と休息を整えるための基本的知識を、科学的な根拠に基づき理解しており、説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 活動と休息を整えるための看護援助を、コミュニケーション・ボディメカニクス・倫理・安全・安楽に配慮しながら、模擬患者に実施することができる。(コミュニケーション能力、看護技術) 3. 食事を整えるための基本的知識を、科学的な根拠に基づき理解しており、説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 4. 食事を整えるための看護援助を、コミュニケーション・ボディメカニクス・倫理・安全・安楽に配慮しながら、模擬患者に実施することができる。(コミュニケーション能力、看護技術) 5. 紙上患者の活動と休息、栄養と食事に関する情報を論理的思考を用いて解釈・判断し、根拠に基づいた看護援助を計画することができる。(アセスメント力、実践力) 6. 対象者によりよい看護援助を提供するための考えや方法についてメンバーと意見交換し、協同して演習に参加することができる。(チームワーク、リーダーシップ)	1. 活動と休息についての基本的知識を、科学的な根拠に基づいた理解には乏しいが、関連する用語は述べられる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 活動と休息を整えるための看護援助を、コミュニケーション・ボディメカニクス・倫理・安全・安楽に一部配慮しながら、模擬患者に概ね実施できる(コミュニケーション能力、看護技術) 3. 栄養と食事についての基本的知識を、科学的な根拠に基づいた理解には乏しいが、関連する用語は述べられる。(自然科学的・臨床医学的知識) 4. 栄養と食事を整えるための看護援助を、コミュニケーション・ボディメカニクス・倫理・安全・安楽に一部配慮しながら、模擬患者に概ね実施できる(コミュニケーション能力、看護技術) 5. 紙上患者の活動と休息、栄養と食事に関する情報を論理的思考を用いて概ね解釈・判断し、不十分ではあるが根拠に基づいた看護援助を計画することができる。(アセスメント力、実践力) 6. 対象者によりよい看護援助を提供するための考えや方法についてメンバーと話し、不十分ではあるが協同して演習に参加することができる。(チームワーク、リーダーシップ)
日常生活援助技術論II	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	1	1	看護の対象者が健康状態に応じた日常生活を営めるよう、「清潔」「排泄」の日常生活行動に関する欲求を充足する援助に必要な基本的知識・技術・態度を、講義および演習を通して身につける。演習ではグループメンバーが患者・看護師役割を取りながら模擬病床上で援助技術を実施する。	1. 清潔を整えるための基本的知識を、科学的な根拠に基づき理解しており、説明できる(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 清潔を整えるための看護援助を、コミュニケーション・ボディメカニクス、倫理・安全・安楽に配慮しながら、模擬患者に実施できる(コミュニケーション能力、看護技術) 3. 自然な排泄を整えるための基本的知識を、科学的な根拠に基づき理解しており、説明できる(自然科学的・臨床医学的知識) 4. 自然な排泄を整えるための看護援助を、コミュニケーション・ボディメカニクス、倫理・安全・安楽に配慮しながら、模擬患者に実施できる(コミュニケーション能力・看護技術) 5. 紙上患者の排泄、清潔に関する情報を論理的思考を用いて統合して解釈・判断し、根拠に基づいた看護援助を計画することができる。(アセスメント力、実践力) 6. 対象者によりよい看護援助を提供するための考えや方法についてメンバーと意見交換し、協同して演習に参加することができる。(チームワーク、リーダーシップ)	1. 清潔を整えるための基本的知識を、科学的な根拠に基づいた理解には乏しいが、関連する用語は述べられる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 清潔を整えるための看護援助を、コミュニケーション・ボディメカニクス、倫理・安全・安楽に一部配慮しながら、模擬患者に概ね実施できる(コミュニケーション能力、看護技術) 3. 自然な排泄を整えるための基本的知識を、科学的な根拠に基づいた理解には乏しいが、関連する用語は述べられる。(自然科学的・臨床医学的知識) 4. 自然な排泄を整えるための看護援助を、コミュニケーション・ボディメカニクス・倫理・安全・安楽に一部配慮しながら、模擬患者に概ね実施できる。(コミュニケーション能力、看護技術) 5. 紙上患者の清潔、排泄に関する情報を論理的思考の活用は不十分であるが解釈・判断し、不十分ではあるが根拠に基づいた看護援助を計画することができる。(アセスメント力、実践力) 6. 対象者によりよい看護援助を提供するための考えや方法についてメンバーと話し、不十分ではあるが協同して演習に参加することができる。(チームワーク、リーダーシップ)
医療支援技術論I	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	1	1	看護の対象が診療を受けるための治療処置時(無菌的操作、吸引、酸素療法、経管栄養、導尿、洗滌など)の援助について学ぶ。演習を通して、状況判断や根拠のある看護が提供できるよう、正確な基礎看護技術の修得を目指す。	1. 感染予防技術の基本的な知識を、科学的な根拠に基づき述べることができる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 感染予防策として、滅菌物の取り扱い、個人防護用具の使用を減菌操作で実施することができる。(コミュニケーション能力、看護技術) 3. 呼吸や循環を整える援助技術を、科学的な根拠に基づき述べることができる。(自然科学的・臨床医学的知識) 4. 栄養や排泄を整える援助技術を、科学的な根拠に基づき述べることができる。(自然科学的・臨床医学的知識) 5. 自然な排泄が困難な模擬患者に必要な導尿を、根拠に基づき実施することができる。(コミュニケーション能力、看護技術) 6. 援助的コミュニケーションをとりながら、模擬患者の安全や発熱心に配慮することができる。(コミュニケーション能力、看護技術) 7. グループワークの意見交換を通して、協同的態度で安全な診療補助の技術を積極的に考えることができる。(チームワーク、リーダーシップ)	1. 感染予防技術の基本的な知識を、助言を受けながら科学的根拠に基づき述べることができる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 感染予防策として、滅菌物の取り扱い、個人防護用具の使用を助言を受けながら減菌操作で実施することができる。(コミュニケーション能力、看護技術) 3. 呼吸や循環を整える援助技術を、助言を受けながら科学的な根拠に基づき述べることができる。(自然科学的・臨床医学的知識) 4. 栄養や排泄を整える援助技術を、助言を受けながら科学的な根拠に基づき述べることができる。(自然科学的・臨床医学的知識) 5. 自然な排泄が困難な模擬患者に必要な導尿を、助言を受けながら根拠に基づき実施することができる。(コミュニケーション能力、看護技術) 6. 援助的コミュニケーションをとりながら、模擬患者の安全や発熱心への配慮に助言を受けて気づくことができる。(コミュニケーション能力、看護技術) 7. グループワークの意見交換を通して、協同的態度で安全な診療補助の技術を考えることが、助言を受けてできる。(チームワーク、リーダーシップ)
医療支援技術論II	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	2	1	看護の対象が安心して診療を受けるための診察・検査時における援助、治療処置時(特にと薬)の援助について学ぶ。演習を通して、状況判断や根拠のある看護が提供できるよう、正確な基礎看護技術の修得を目指す。看護の対象が安心して診療を受けるための診察・検査時における援助、治療処置時(特にと薬)の援助について学ぶ。演習を通して、状況判断や根拠のある看護が提供できるよう、正確な安全な基礎看護技術の修得を目指す。	1. 検査に必要な医療支援技術を、科学的な根拠に基づき述べることができる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 主な検体の採取および取り扱いを正確かつ安全に実施する方法を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 3. 静脈血採血を、基本的な方法でシミュレーターに行うことができる。(コミュニケーション能力、看護技術) 4. 薬物療法における看護師の役割と責任を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 5. 与薬の種類と正確かつ安全に与薬する基本的方法を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 6. 皮下注射と筋肉内注射及び点滴静脈内注射を、基本的な方法でシミュレーターに行うことができる。(コミュニケーション能力、看護技術) 7. 演習で対象の尊厳と権利を擁護し、援助的コミュニケーションをとりながら、関わるることができる。(コミュニケーション能力・看護技術) 8. グループワークを通して、協同的態度で安全かつ安楽な診療補助の技術が実践できる。(チームワーク、リーダーシップ)	1. 検査に必要な医療支援技術を、助言を受けながら科学的な根拠に基づき述べることができる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 主な検体の採取および取り扱いを正確かつ安全に実施する方法を助言を受けながら説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 3. 静脈血採血を、助言を受けながら基本的な方法でシミュレーターに行うことができる。(コミュニケーション能力、看護技術) 4. 薬物療法における看護師の役割と責任を助言を受けながら説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 5. 与薬の種類と正確かつ安全に与薬する基本的方法を助言を受けながら説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 6. 皮下注射と筋肉内注射及び点滴静脈内注射を、助言を受けながら基本的な方法でシミュレーターに行うことができる。(コミュニケーション能力、看護技術) 7. 演習で対象を尊重し、援助的コミュニケーションをとりながら関わる必要が、助言を受けながらできる。(コミュニケーション能力、看護技術) 8. グループワークを通して、協同的態度で安全な診療補助の技術の必要性に助言を受けて気づくことができる。(チームワーク、リーダーシップ)
成人看護学概論	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	1	1	成人期にある人の身体的・心理的・社会的な特徴や発達課題、特有な健康問題について理解する。また、成人期にある人の健康レベルに応じた多様な看護援助について、基盤となる概念や理論を通して理解を深める。	1. 成人期にある人の身体的・心理的・社会的な特徴、発達課題、特有な健康問題について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 2. 成人期にある人の生活と健康問題について関連づけながら説明できる。(人間科学的・社会医学的知識)(多職種・多機関連携) 3. 成人期にある人の健康レベルに応じた看護援助について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識)(多職種・多機関連携) 4. 成人期にある人の看護の基盤となる概念や理論について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 5. 成人期にある人の特徴とその看護に求められる看護師の役割を考え、自身の言葉で表現できる。(多職種・多機関連携)(倫理観、自律性)	1. 成人期にある人の身体的・心理的・社会的な特徴、発達課題、特有な健康問題について基本的な事項を説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 2. 成人期にある人の生活と健康問題について基本的な事項を関連づけながら説明できる。(人間科学的・社会医学的知識)(多職種・多機関連携) 3. 成人期にある人の健康レベルに応じた看護援助について基本的な事項を説明できる。(人間科学的・社会医学的知識)(多職種・多機関連携) 4. 成人期にある人の看護の基盤となる概念や理論について基本的な事項を説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 5. 成人期にある人の特徴とその看護に求められる看護師の役割を考えることができる。(多職種・多機関連携)(倫理観、自律性)
成人看護学援助論I	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	2	2	急性期の健康問題をもつ成人へ看護を実践するために、急激な健康障害の発症により生命の危機状態にある対象者への理解を深め、回復や生活の再構築を促す看護援助について理解する。具体的には、両手術期看護・クリティカルケア看護を取り上げ、事例をもとに対象者に必要な看護について理解する。	1. 健康レベルが急激に変化し、生命の危機状態にある対象者の特徴について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識)(コミュニケーション能力、看護技術) 2. 急性期の健康問題と対象者の心身へ及ぼす影響について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識)(アセスメント力、実践力) 3. 回復を促進し、生活の再構築を促すための専門的看護援助について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識)(社会資源の活用・開発)(多職種・多機関連携)	1. 健康レベルが急激に変化し、生命の危機状態にある対象者の特徴について、基本的な事項を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識)(コミュニケーション能力、看護技術) 2. 急性期の健康問題と対象者の心身へ及ぼす影響について、基本的な事項を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識)(アセスメント力、実践力) 3. 回復を促進し、生活の再構築を促すための専門的看護援助について、基本的な事項を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識)(社会資源の活用・開発)(多職種・多機関連携)

科目名称	科目区分	学年	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
成人看護学援助論II	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	2	2	成人期にある慢性疾患およびがんをもつ人のセルフケアに向けた看護を提供するために、疾患の病態生理や治療などの基礎科目を振り返りながら、慢性疾患をもつ人の身体・心理・社会的特徴および看護、その看護に必要な理論の活用方法について学習する。	1. 慢性疾患およびがんをもつ人の身体・心理・社会的特徴を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (アセスメント力、実践力) 2. 慢性疾患およびがんをもつ人の看護の特徴を説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (コミュニケーション能力、看護技術) (多職種・多機関連携) (アセスメント力、実践力) (社会資源の活用・開発) 3. 慢性疾患およびがんをもつ人のセルフケアに向けた教育の目的と方法が説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (コミュニケーション能力、看護技術) (多職種・多機関連携) (アセスメント力、実践力) (社会資源の活用・開発) 4. 終末期にある人の身体・心理・社会的特徴とその看護の特徴を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (コミュニケーション能力、看護技術) (多職種・多機関連携) (アセスメント力、実践力) (社会資源の活用・開発) 5. 慢性疾患およびがんをもつ人への看護について考え、自分の言葉で説明できる。(倫理観、自律性)	1. 慢性疾患およびがんをもつ人の身体・心理・社会的特徴について、基本的な事項を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (アセスメント力、実践力) 2. 慢性疾患およびがんをもつ人の看護の特徴について、基本的な事項を説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (コミュニケーション能力、看護技術) (多職種・多機関連携) (アセスメント力、実践力) (社会資源の活用・開発) 3. 慢性疾患およびがんをもつ人のセルフケアに向けた教育の目的と方法について、基本的な事項を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (コミュニケーション能力、看護技術) (多職種・多機関連携) (アセスメント力、実践力) (社会資源の活用・開発) 4. 終末期にある人の身体・心理・社会的特徴とその看護の特徴について、基本的な事項を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (コミュニケーション能力、看護技術) (多職種・多機関連携) (アセスメント力、実践力) (社会資源の活用・開発) 5. 慢性疾患およびがんをもつ人への看護について基本的な事項を説明できる。(倫理観、自律性)
成人看護学援助演習I	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	2	1	急激な健康障害の発症により、生命の危機状態にある対象者に必要な看護を実践するための援助技術を習得する。具体的には、事例を通して、急性期の健康問題をもつ成人の看護過程を展開するための知識・技術について理解する。	1. 急性・回復の状況にある成人の特徴について、用手術期の段階ごとに説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (コミュニケーション能力、看護技術) 2. 急性期の健康問題をもつ対象者の看護過程を展開することができる。(自然科学的・臨床医学的知識) (アセスメント力、実践力) (多職種・多機関連携) (チームワーク、リーダーシップ) 3. 急性期の健康問題をもつ対象者の特性に応じた看護技術を習得することができる。(自然科学的・臨床医学的知識) (社会資源の活用・開発)	1. 急性・回復の状況にある成人の特徴について、用手術期の段階ごとに基本的な事項を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (コミュニケーション能力、看護技術) 2. 急性期の健康問題をもつ対象者の基本的な看護過程を展開することができる。(自然科学的・臨床医学的知識) (アセスメント力、実践力) (多職種・多機関連携) (チームワーク、リーダーシップ) 3. 急性期の健康問題をもつ対象者の特性に応じた基本的な看護技術を習得することができる。(自然科学的・臨床医学的知識) (社会資源の活用・開発)
成人看護学援助演習II	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	3	1	成人期にある慢性疾患およびがんをもつ人のセルフケアに向けた看護を提供するために、個人およびグループで事例の看護過程を展開することにより思考プロセスを学習するとともに、ロールプレイングを通して慢性疾患をもつ人のセルフケアに向けた看護実践を行うために必要な援助技術を学習する。	1.慢性疾患もしくはがんをもつ人の身体状況とその原因、疾患による心理的・社会的状態の変化について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (アセスメント力、実践力) 2.慢性疾患もしくはがんをもつ人の看護上の問題を抽出できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (アセスメント力、実践力) 3.慢性疾患もしくはがんをもつ人の看護上の問題を解決するための思考プロセスを理解できる。(アセスメント力、実践力) 4.慢性疾患もしくはがんをもつ人との家族に必要な援助計画を立案することができる。(コミュニケーション能力、看護技術) (多職種・多機関連携) (アセスメント力、実践力) (社会資源の活用・開発) 5.慢性疾患もしくはがんをもつ人のセルフケアに向けた看護実践を行うために必要な看護技術を実践できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (多職種・多機関連携) (アセスメント力、実践力) (社会資源の活用・開発) (チームワーク、リーダーシップ) 6.慢性疾患およびがんをもつ人への看護を提供するうえで重要なことは何かを考え、自分の言葉で説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (多職種・多機関連携) (アセスメント力、実践力) (社会資源の活用・開発)	1.慢性疾患もしくはがんをもつ人の身体状況とその原因、疾患による心理的・社会的状態の変化について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (アセスメント力、実践力) 2.慢性疾患もしくはがんをもつ人の看護上の問題を助言により抽出できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (アセスメント力、実践力) 3.慢性疾患もしくはがんをもつ人の看護上の問題を解決するための思考プロセスについて、基本的な要素を説明できる。(アセスメント力、実践力) 4.慢性疾患もしくはがんをもつ人との家族に必要な援助計画を助言により立案することができる。(コミュニケーション能力、看護技術) (多職種・多機関連携) (アセスメント力、実践力) (社会資源の活用・開発) 5.慢性疾患もしくはがんをもつ人のセルフケアに向けた看護実践を行うために必要な看護技術について、基本的な事項を実践できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (多職種・多機関連携) (アセスメント力、実践力) (社会資源の活用・開発) (チームワーク、リーダーシップ) 6.慢性疾患およびがんをもつ人への看護を提供するうえで基本的な内容を挙げ、説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (多職種・多機関連携) (アセスメント力、実践力) (社会資源の活用・開発)
成人看護学実習I	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	3・4	3	成人期において急性および回復状況にある対象の心身の特徴や健康障害に応じた看護援助に必要とされる知識・技術・態度を習得する。健康状態が急激に変化する用手術期にある対象を受け持ち、一連の看護過程を展開することによって、生命の危機を回避し、回復を促進するために必要な看護実践能力を習得する。	1. 用手術期にある対象との援助的人間関係を築くことができる。(コミュニケーション能力、看護技術) 2. 用手術期にある対象の置かれている状況や場に必要な看護実践を理解することができる。(自然科学的・臨床医学的知識) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) 3. 用手術期にある対象を全人的に捉えながら、看護過程を展開することができる。(自然科学的・臨床医学的知識) (アセスメント力、実践力) (社会資源の活用・開発) 4. 医療チームの一員として責任ある行動をとり、主体的に学ぶことができる。(倫理観、自律性) (チームワーク、リーダーシップ) 5. 実習を通して学んだことを表現し、自己の学びと課題を明確にすることができる。(自然科学的・臨床医学的知識) (コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力)	1. 用手術期にある対象との基本的な人間関係を築くことができる。(コミュニケーション能力、看護技術) 2. 用手術期にある対象の置かれている状況や場に必要な看護実践について、基本的な事項を理解することができる。(自然科学的・臨床医学的知識) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) 3. 用手術期にある対象を全人的に捉えながら、基本的な看護過程を展開することができる。(自然科学的・臨床医学的知識) (アセスメント力、実践力) (社会資源の活用・開発) 4. 医療チームの一員として責任ある行動をとる、基本的な事項を学ぶことができる。(倫理観、自律性) (チームワーク、リーダーシップ) 5. 実習を通して学んだことを表現し、自己の学びと課題について基本的な事項を明確にすることができる。(自然科学的・臨床医学的知識) (コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力)
成人看護学実習II	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	3・4	3	治療および急性病態により入院した慢性疾患患者あるいはがん患者の身体状況と生活を理解し、病状や症状の治癒、緩解、または重症化を予防するためのセルフケアの確立に向けた看護実践を行うために必要な基礎的能力を修得する。	1.慢性疾患あるいはがんをもつ対象の身体状況とその原因について説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) 2.慢性疾患あるいはがんをもつ対象とその家族の考えや思い、価値観、生活習慣および社会的役割の変化を説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) 3.症状をコントロールしながらその人らしい生活を送るための日常生活の調整方法を、慢性疾患あるいはがんをもつ対象とその家族、医療チームとともに考え、援助できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (多職種・多機関連携) (アセスメント力、実践力) (社会資源の活用・開発) (チームワーク、リーダーシップ) 4.慢性疾患あるいはがんをもつ対象とその家族の病状や治療に対する認識や学習能力に応じた、指導の重要性を理解し、援助できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (多職種・多機関連携) (アセスメント力、実践力) (社会資源の活用・開発) 5.退院後の生活を送るためのサポート・ネットワークと利用可能な社会的資源を説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (多職種・多機関連携) (アセスメント力、実践力) (社会資源の活用・開発) (チームワーク、リーダーシップ) 6.慢性疾患およびがんを抱える対象の体験に共感を寄せ、共感的に関わることができる。(倫理観、自律性) (コミュニケーション能力、看護技術)	1.慢性疾患あるいはがんをもつ対象の身体状況とその原因について、看護過程を展開するうえで必要な内容を説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) 2.慢性疾患あるいはがんをもつ対象とその家族の考えや思い、価値観、生活習慣および社会的役割の変化について、看護過程を展開するうえで必要な内容を説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) 3.症状をコントロールしながらその人らしい生活を送るための日常生活の調整方法を立案し、援助できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (多職種・多機関連携) (アセスメント力、実践力) (社会資源の活用・開発) (チームワーク、リーダーシップ) 4.慢性疾患あるいはがんをもつ対象の病状や治療に対する認識や学習能力に応じた指導の重要性を理解し、看護部とともに援助できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (多職種・多機関連携) (アセスメント力、実践力) (社会資源の活用・開発) 5.退院後の生活を送るためのサポート・ネットワークと利用可能な社会的資源について、看護過程を展開するうえで必要な内容を説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (多職種・多機関連携) (アセスメント力、実践力) (社会資源の活用・開発) 6.慢性疾患あるいはがんをもつ対象の体験に関心を寄せ関わることができる。(倫理観、自律性) (コミュニケーション能力、看護技術)
老年看護学概論	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	1	1	老年期の発達課題、加齢変化、成熟する能力について総合的に学び、高齢者に対する理解を深める。また、高齢者と家族、並びに権利擁護の現状から超高齢社会の模相を概観し、高齢者が置かれている状況を把握する。これらの学習を通して、老年看護の役割を考察する。	1. 超高齢社会の特徴を、人口構成、家族形態、制度・職種の各側面から説明できる。(多職種・多機関連携) 2. 老年期の発達課題、加齢変化の身体・生理的側面、心理・精神的側面、社会的側面について、その特徴を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (人間科学的・社会医学的知識) 3. 加齢変化が高齢者の健康や生活に及ぼす影響を説明できる。(アセスメント力、実践力) 4. 高齢者虐待及び身体拘束に関する特徴と弊害を説明し、老年看護における権利擁護の重要性を考察できる。(倫理観、自律性) 5. 学びの統合を通して、老年看護の役割と援助者に求められる倫理的態度について、自身の言葉で表現できる。(倫理観、自律性)	1. 超高齢社会の主たる特徴を、人口構成、家族形態、制度・職種の各側面から説明できる。(多職種・多機関連携) 2. 老年期の発達課題、加齢変化の身体・生理的側面、心理・精神的側面について、その特徴を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (人間科学的・社会医学的知識) 3. 加齢変化が高齢者の健康や生活に及ぼす影響を説明できる。(アセスメント力、実践力) 4. 高齢者虐待の種類と現状、及び身体拘束の弊害を説明できる。(倫理観、自律性) 5. 老年看護に求められる役割を表現できる。(倫理観、自律性)

科目名称	科目区分	学年	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
老年看護学援助論	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	2	2	加齢による心身の変化をふまえ、老年期にみられる特徴的な健康・生活面の不具合とそのアセスメント方法を理解する。 その上で不具合の軽減または持てる力の維持・向上をはかる援助方法を理解する。また、健康段階や療養の場による援助の特徴について理解する。 老年期特有の看護として、認知機能に不具合のある高齢者に対する援助、その人らしく生活するための援助方法を検討する。	1. 加齢変化を踏まえた高齢者の日常生活機能を把握する方法と援助方法を説明できる (自然科学的・臨床医学的知識) (人間科学的・社会医学的知識) (アセスメント力、実践力) (コミュニケーション能力、看護技術) 2. 認知機能に不具合のある高齢者の評価方法と援助方法を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (人間科学的・社会医学的知識) (アセスメント力、実践力) (コミュニケーション能力、看護技術) 3. 身体疾患や症状・症候群を併存させながら療養生活を送る高齢者の評価方法と援助方法を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (人間科学的・社会医学的知識) (アセスメント力、実践力) (コミュニケーション能力、看護技術) 4. 高齢者に対する治療の特徴、入院の際の援助方法を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (人間科学的・社会医学的知識) (アセスメント力、実践力) (コミュニケーション能力、看護技術) 5. 療養生活を送る高齢者家族への援助方法を説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (アセスメント力、実践力) (コミュニケーション能力、看護技術) (社会資源の活用・開発) (多職種・多機関連携) 6. エンドオブライフケアの概念、および人生の最終段階に求められる援助方法を説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (アセスメント力、実践力) (コミュニケーション能力、看護技術) (社会資源の活用・開発) 7. 上記の学びを統合して、老年看護実践において必要とされる知識と技術を明確に表現できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (社会資源の活用・開発) (チームワーク・リーダーシップ)	1. 加齢変化を踏まえた高齢者の日常生活機能を把握する方法と援助方法の基本事項を説明できる (自然科学的・臨床医学的知識) (人間科学的・社会医学的知識) (アセスメント力、実践力) (コミュニケーション能力、看護技術) 2. 認知機能に不具合のある高齢者の評価方法と援助方法の基本事項を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (人間科学的・社会医学的知識) (アセスメント力、実践力) (コミュニケーション能力、看護技術) 3. 身体疾患や症状・症候群を併存させながら療養生活を送る高齢者の評価方法と援助方法に関する基本事項を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (人間科学的・社会医学的知識) (アセスメント力、実践力) (コミュニケーション能力、看護技術) 4. 高齢者に対する治療の特徴、入院の際の援助方法に関する基本事項を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (人間科学的・社会医学的知識) (アセスメント力、実践力) (コミュニケーション能力、看護技術) (多職種・多機関連携) 5. 療養生活を送る高齢者家族への援助方法に関する基本事項を説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (アセスメント力、実践力) (コミュニケーション能力、看護技術) (社会資源の活用・開発) (多職種・多機関連携) 6. エンドオブライフケアの概念、および人生の最終段階に求められる援助方法の基本事項を説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (アセスメント力、実践力) (コミュニケーション能力、看護技術) (社会資源の活用・開発) 7. 上記の学びを関連付けて老年看護実践において必要とされる知識と技術を表現できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (社会資源の活用・開発) (チームワーク・リーダーシップ)
老年看護学援助演習	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	2	1	療養生活を送る高齢者の意向と加齢変化の特徴を踏まえた看護の基盤となる病態の把握、情報整理、アセスメントを紙上事例にて実施する。紙上事例の全体像から療養生活を送る高齢者の優先的な看護課題・課題を理解する。また、要介護状態にある高齢者のコミュニケーションと日常生活援助の方法を体験などを通して考察する。	1. 高齢者の加齢変化の要素、原疾患の結びついた病態関連図を作成ができる。(自然科学的・臨床医学的知識) (アセスメント力、実践力) 2. 療養生活を送る高齢者の身体的・心理的・社会的情報の整理とアセスメントができる。(多職種・多機関連携) (アセスメント力、実践力) (社会資源の活用・開発) 3. アセスメントを統合して、高齢者の全体像を描き、看護上の課題を適切な優先順位で説明できる。(アセスメント力、実践力) 4. 要介護状態の高齢者に対する個別性に合わせたコミュニケーション方法を工夫できる (コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) 5. 要介護状態の高齢者に対する日常生活援助の方法を加齢変化と病態に関連付けて説明できる (コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) 6. グループによるディスカッションと共同作業に協同して参加する (チームワーク・リーダーシップ) 7. 演習での体験を通して老年看護実践に必要な知識、技術、態度における自己の課題を明確に表現できる。(研究能力、自己研鑽)	1. 高齢者の加齢変化の要素や既往症の結びついた病態関連図を作成ができる。(自然科学的・臨床医学的知識) (アセスメント力、実践力) (コミュニケーション能力、看護技術) 2. 療養生活を送る高齢者の身体的・心理的・社会的情報の整理し、身体面のアセスメントができる。(多職種・多機関連携) (アセスメント力、実践力) (社会資源の活用・開発) 3. アセスメントを統合して、高齢者の全体像を描き、看護上の課題を説明できる。(アセスメント力、実践力) 4. 要介護状態の高齢者に対する基本的なコミュニケーション方法を工夫できる (コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) 5. 要介護状態の高齢者に対する日常生活援助の方法を加齢変化や病態に関連付けて説明できる (コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) 6. グループによるディスカッションと共同作業に参加する (チームワーク・リーダーシップ) 7. 演習での体験を通して老年看護実践に必要な知識、技術、態度における自己の課題を表現できる。(研究能力、自己研鑽)
老年看護学実習I (地域)	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	3	1	地域で日常生活を営む高齢者の特徴、並びに通所サービスなど社会資源の役割・機能を理解するとともに、健康維持・介護予防期にある高齢者の看護に必要な知識と態度を修得する。	1. 通所サービス、並びに併設するサービスの特徴と役割を説明できる。(社会資源の活用・開発) 2. 地域在住高齢者の健康状態や日常生活能力を把握するための観察項目を説明できる。(アセスメント力、実践力) 3. 通所サービスに従事する職種の専門性と多職種連携の重要性を説明できる (多職種・多機関連携) 4. 地域在住高齢者とその家族の健康・生活を支える資源、環境、並びに地域包括ケアシステムの要点とその活用について説明できる。(社会資源の活用・開発) 5. 通所サービスの利用者や従事者に受け入れられる社会性と倫理観を備えた態度をとり、主体的に交流を図ることができる。(コミュニケーション能力、看護技術) (倫理観、自律性) 6. グループワークにおいて積極的に意見を述べるとともに、他者の意見を受け止め、自らの考えを発展させることができる。(チームワーク・リーダーシップ)	1. 通所サービスの制度的背景、提供している援助、従事している職種、看護職の役割を説明できる。(社会資源の活用・開発) 2. 地域在住高齢者の健康状態や日常生活能力を把握するための観察項目を説明できる。(アセスメント力、実践力) 3. 通所サービスに従事する職種の役割を説明できる (多職種・多機関連携) 4. 通所サービス利用者の健康と生活を支える、主要な資源、環境について説明できる。(社会資源の活用・開発) 5. 挨拶や自己紹介を自ら行うなど、通所サービスの利用者や従事者に受け入れられる基本的態度をとることができる。(コミュニケーション能力、看護技術) (倫理観、自律性) 6. グループワークで、自らの意見を発言するとともに、他者の意見を聴いて、自分の意見を深めることができる。(チームワーク・リーダーシップ)
老年看護学実習II (施設)	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	3・4	1	介護老人福祉施設に入所する高齢者の特徴、介護老人福祉施設の役割・機能、ならびに働く職種の専門性を理解するとともに、維持期あるいは重度期にある高齢者の看護に必要とされる知識と態度を修得する。	1. 介護老人福祉施設に入所する高齢者の生活・健康面の特徴を説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (コミュニケーション能力、看護技術) 2. 入所している高齢者に必要な看護の特徴を説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (アセスメント力、実践力) (コミュニケーション能力、看護技術) 3. 介護老人福祉施設の体制と、施設サービスの内容を説明できる。(社会資源の活用・開発) 4. 介護老人福祉施設で働く看護師が協力する職種の専門性ならびに多職種連携の重要性を説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (多職種・多機関連携) (チームワーク・リーダーシップ) 5. 生活の場である介護老人福祉施設と治療の場である病院において高齢者の権利を守るための看護師の役割の共通点と相違点を説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (社会資源の活用・開発) (倫理観、自律性) 6. カンファレンスおよびグループワークで自らの意見を積極的に発言するとともに、他者の意見を尊重できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (チームワーク・リーダーシップ)	1. 介護老人福祉施設に入所する高齢者の生活・健康面の特徴の概略を説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (コミュニケーション能力、看護技術) 2. 介護老人福祉施設における看護業務の要点概略を説明できる。(技能) (思考・判断・表現) (人間科学的・社会医学的知識) (コミュニケーション能力、看護技術) 3. 介護老人福祉施設の体制と、施設サービスの内容を説明できる。(社会資源の活用・開発) 4. 介護老人福祉施設で働く多職種との連携・協力の実際を説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (多職種・多機関連携) (チームワーク・リーダーシップ) 5. 生活の場である介護老人福祉施設と治療の場である病院における高齢者の権利を守るための看護師の役割の共通点と相違点を説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (社会資源の活用・開発) (倫理観、自律性) 6. カンファレンスおよびグループワークで自らの意見を積極的に発言することができる。(コミュニケーション能力、看護技術) (チームワーク・リーダーシップ)
老年看護学実習III (病院)	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	3・4	2	病院で入院生活を送る高齢者とその家族の健康・生活上の課題を理解するとともに、治療期にある高齢者の看護に必要とされる知識・技術・態度を修得する。	1. 治療を受けながら入院生活を送る高齢者の健康・生活上の複数の課題を系統立てて列挙する。(自然科学的・臨床医学的知識) (コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) 2. 優先順位の高い高齢者の生活歴、意向ならびに加齢変化の特徴を踏まえた個別性、実行性のある看護計画を立案する。(自然科学的・臨床医学的知識) (コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) 3. 退院後の生活や家族の状況を考慮した看護の実際を説明し、退院に向けて必要となる看護を推奨する。(アセスメント力、実践力) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) 4. 看護上の課題を解決するために必要な知識・技術・態度を統合し、看護計画に基づいた実践を遂行する。(倫理観、自律性) (コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) 5. 看護チームの一員に求められる看護学生として誠実な態度を示す。(倫理観、自律性) (多職種・多機関連携) (チームワーク・リーダーシップ) 6. 上記を通じて自己分析を行い、今後の課題を具体的に述べる。(研究能力、自己研鑽)	1. 治療を受けながら入院生活を送る高齢者の健康・生活上の課題を述べる。(自然科学的・臨床医学的知識) (コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) 2. 優先順位の高い高齢者の生活歴、意向ならびに加齢変化の特徴を踏まえた看護計画を立案する。(自然科学的・臨床医学的知識) (コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) 3. 退院後の生活や家族の状況を考慮した看護の実際を説明する。(アセスメント力、実践力) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) 4. 看護上の課題を解決するために必要な知識・技術・態度を統合し、看護計画に基づいた実施計画を立案する。(倫理観、自律性) (コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) 5. 看護チームの一員に求められる看護学生として誠実な態度を示す。(倫理観、自律性) (多職種・多機関連携) (チームワーク・リーダーシップ) 6. 上記を通じて自己分析を行い、今後の課題を述べる。(研究能力、自己研鑽)

科目名称	科目区分	学年	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	到達目標 (成績評価C)
小児看護学援助演習	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	3	1	子どもの成長発達、健康の維持増進を図るために必要な援助に関して、基本的知識と実践力を身につける。また、療養を必要とする子どもに対して適切な看護を提供するために、その根拠を理解した上で基本的な小児看護技術を身につける。さらに、子どもの健康、発達、および生活を理解した上で、健康障がいのある子どもの、援助を要する課題に対して、適切な援助を導く一連の看護過程について、演習を通して身につける。	<ol style="list-style-type: none"> 子どもの特性を理解し、発達段階に応じた子どもを尊重した関わり方が説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) 小児看護に特徴的な基本技術について発達段階による違いを理解し、演習を通して実践できる。(人間科学的・社会医学的知識) (コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) 健康障がいがある子どもへの看護援助の方法について、根拠とともに具体的に説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (人間科学的・社会医学的知識) (コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) 健康障がいがある子どもとその家族に対する看護計画を、適切な優先順位を考慮して立案できる。(アセスメント力、実践力) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) 演習を通して、看護過程展開における自身の思考プロセスについて、根拠を提示しながら言語化できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) 既習の小児看護学の知識を具体的な技術に実践するために、主体的な学習とグループワークを通して、自身の学習課題が挙げられるとともに、その対策を言語化できる。(倫理観、自律性) (人間科学的・社会医学的知識) (チームワーク、リーダーシップ) 	<ol style="list-style-type: none"> 子どもの特性を理解し、子どもを尊重した基本的な関わり方が説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) 小児看護に特徴的な基本技術を理解し、演習を通して実践できる。(人間科学的・社会医学的知識) (コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) 健康障がいがある子どもへの看護援助の方法について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (人間科学的・社会医学的知識) (コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) 健康障がいがある子どもとその家族に対する看護計画を立案できる。(アセスメント力、実践力) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) 演習を通して、看護過程展開における自身の思考プロセスを言語化できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) 既習の小児看護学の知識を具体的な技術に実践するために、主体的な学習とグループワークを通して、自身の学習課題が挙げられる。(倫理観、自律性) (人間科学的・社会医学的知識) (チームワーク、リーダーシップ)
小児看護学概論	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	2	1	子どもと家族について、成長発達や生活、とりまく社会・環境の特徴を学習する。また、小児看護の理念、子どもに関連した法律や政策をふまえて、子どもの尊厳と権利を擁護し、成長を支援するための小児看護の基本的知識を学ぶ。これらの学習を通して、小児看護の役割や課題を学ぶ。	<ol style="list-style-type: none"> 子どもと家族の尊厳・権利、小児看護の基本的理念と役割を理解し、現状と課題が説明できる。(倫理観、自律性) (人間科学的・社会医学的知識) (社会資源の活用・開発) 子どもの成長発達の特徴とその評価について、発達段階ごとに説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 子どもの成長、および、家族や社会の状況を理解し、発達段階ごとの特徴が説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 子どもの養育にかかわる法、政策、施策について説明し、現状と課題を見いだすことができる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) 小児看護学を学ぶ意義を理解して主体的に学習し、自身の学習課題を挙げることができる。(倫理観、自律性) 	<ol style="list-style-type: none"> 子どもと家族の尊厳・権利、小児看護の基本的理念と役割を理解し、基本的事項が説明できる。(倫理観、自律性) (人間科学的・社会医学的知識) (社会資源の活用・開発) 子どもの成長発達の特徴とその評価について基本的な事項が説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 子どもの成長、および、家族や社会の状況を理解し、基本的事項が説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 子どもの養育にかかわる法、政策、施策について基本的な事項が説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) 小児看護学を学ぶことの意味を理解して主体的に学習できる。(倫理観、自律性)
小児看護学援助論	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	2	2	小児期の発達、生活、健康の特徴をふまえて、健康レベルが子どもの成長発達や日常生活、さらには家族に与える影響を理解した上で、さまざまな状況にある子どもと家族について、援助を要する課題をとらえる力を養う。さらに、子どもと家族それぞれがもつ能力を活かした看護援助について学習する。	<ol style="list-style-type: none"> 子どもに特徴的な健康障がいとその症状について、病態と治療および看護を含めて説明できる(自然科学的・臨床医学的知識) (人間科学的・社会医学的知識) 健康障がいがある子どもと家族に与える影響について、発達段階の特徴を踏まえて説明できる。(アセスメント力、実践力) 健康レベルに応じた子どもと家族に対する看護について、状況をふまえて説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) 子どもと家族について、発達、生活、健康の三側面をもとにとらえ、包括的に対象を理解することができる。(自然科学的・臨床医学的知識) (人間科学的・社会医学的知識) (アセスメント力、実践力) 子どもと家族について、発達、生活、健康上の課題を見だし、優先順位を付けて説明することができる。(アセスメント力、実践力) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) (チームワーク、リーダーシップ) 非日常的な環境にある子どもと家族に対する看護について、状況をふまえて説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) 子どもの尊厳と権利を守るために必要な看護援助について、既習の知識も踏まえて主体的に学習し、自身の学習課題を挙げられる。(倫理観、自律性) 	<ol style="list-style-type: none"> 子どもに特徴的な健康障がいとその症状について、基本的事項が説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (人間科学的・社会医学的知識) 健康障がいがある子どもと家族に与える影響について、基本的事項が説明できる。(アセスメント力、実践力) 健康レベルに応じた子どもと家族に対する看護について、基本的事項が説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) 子どもと家族について、発達、生活、健康の三側面をもとにとらえ、対象の情報を整理することができる。(アセスメント力、実践力) 子どもと家族について、発達、生活、健康上の課題を見いだすことができる。(アセスメント力、実践力) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) 非日常的な環境にある子どもと家族の看護について、基本的事項が説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) 子どもの尊厳と権利を守るために必要な看護援助について、既習の知識もふまえて主体的に学習できる。(倫理観、自律性)
小児看護学実習	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	3・4	2	様々な疾病や障がい、および、健康レベルにより医療を必要とする子どもと家族を総合的に理解し、健康上および成長発達上の問題解決に向けた援助を通して、小児看護に必要な知識・技術・態度を、外来と病棟実習を通して学習する。保育施設における乳幼児の日常生活を通して、小児期の特性を理解し、成長・発達を促すかわりを実践を学ぶ。子どもと家族の状態をとらえて看護過程を展開し、援助が必要なケアの内容および方法を導き看護を実践する。加えて、小児医療・小児保健における多職種・多機関連携、社会資源の活用と、小児看護の役割を学習する。	<ol style="list-style-type: none"> 健康レベルや発達段階、生活状況をふまえて、子どもの特性を理解し、子どもを尊重してかわることができる。(倫理観、自律性) (コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) (人間科学的・社会医学的知識) 子どもと家族について、発達、生活、健康の三側面をふまえて情報収集し、統合できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (人間科学的・社会医学的知識) 子どもと家族の発達、生活、健康上の課題を見だし、優先順位を付けて説明できる。(アセスメント力、実践力) 子どもと家族を支援する看護を実践し、評価・修正できる。(アセスメント力、実践力) (コミュニケーション能力、看護技術) (社会資源の活用・開発) 各実習施設における小児看護の役割について説明し、自己の考えを述べることができる。(人間科学的・社会医学的知識) (社会資源の活用・開発) 各実習施設に特徴的な多職種・多機関連携を説明し、小児看護の役割を述べることができる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) 知識を統合するために主体的に学習し、自身の学習課題が挙げられるとともに、その対策を言語化できる。(倫理観、自律性) (コミュニケーション能力、看護技術) 保健医療福祉チームおよび実習グループの一員として、責任をもって行動することができる。(倫理観、自律性) (チームワーク、リーダーシップ) 	<ol style="list-style-type: none"> 子どもの特性を理解し、子どもを尊重してかわることができる。(倫理観、自律性) (コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) 子どもと家族について、発達、生活、健康の三側面から情報を収集できる。(アセスメント力、実践力) 子どもと家族の発達、生活、健康上の課題を見だしそれぞれを説明できる。(アセスメント力、実践力) 子どもと家族を支援する看護が実践できる。(アセスメント力、実践力) (コミュニケーション能力、看護技術) (社会資源の活用・開発) 各実習施設における小児看護の役割について説明することができる。(人間科学的・社会医学的知識) (社会資源の活用・開発) 各実習施設に特徴的な多職種・多機関連携について特徴を説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) 実習を通して小児看護の知識を統合するために主体的に学習できる。(倫理観、自律性) (コミュニケーション能力、看護技術) 保健医療福祉チームおよび実習グループの一員に求められる基本的な行動をとることができる。(倫理観、自律性) (チームワーク、リーダーシップ)
母性看護学援助演習	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	3	1	妊娠・分娩・産褥期における母性および胎児・新生児とその家族の事例を取り上げ、ウェルネスレベルの看護診断の技法を用いて、正常な妊娠・分娩・産褥・新生児の経過を家族の役割等も含めてアセスメントし、それに伴った援助のあり方について考え、評価を行うという一連のプロセスの基本的な展開方法を学習する。また妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の経過や対応をとらえる技術に関する基本的知識と実践能力を、演習を通して修得する。	<ol style="list-style-type: none"> 妊娠・分娩・産褥・新生児の経過と健康診査に必要な情報収集と観察のポイントが説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) 妊娠・分娩・産褥にある母性の事例について、収集した情報をアセスメントし、ウェルネスレベルの看護過程に基づき、計画立案できる。(アセスメント力、実践力) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) (チームワーク、リーダーシップ) コミュニケーションを含めてヘルスアセスメントを実施し、母性看護の基本的な援助技術の実際を説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) 母性看護学に必要な知識を統合し、具体的な技術を提供するために主体的学習を行い、自らの課題を明確にできる。(チームワーク、リーダーシップ) (研究能力、自己研鑽) 	<ol style="list-style-type: none"> 妊娠・分娩・産褥・新生児の経過と健康診査に必要な情報収集と観察のポイントが説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) 妊娠・分娩・産褥にある母性の事例について、収集した情報をアセスメントし、計画立案できる。(アセスメント力、実践力) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) (チームワーク、リーダーシップ) コミュニケーションを含めてヘルスアセスメントを実施し、母性看護の基本的な援助技術の実際を理解できる。(コミュニケーション能力、看護技術) 母性看護学に必要な知識を理解し、具体的な技術を提供するために学習を行い、自らの課題について考えられることができる。(チームワーク、リーダーシップ) (研究能力、自己研鑽)
母性看護学概論	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	2	1	Reproductive Health, Women's Healthという視点から、母性の各発達段階における身体的・心理的・社会的特性について学習する。またライフサイクルに応じた女性の健康を保つ意義と課題や、母性を取り巻く環境や地域システムなどを理解し、母性看護の意義と援助のための基本的知識・態度とそこに関わる看護者の役割を学ぶ。	<ol style="list-style-type: none"> 母性看護の特徴・発達段階と身体的・心理的・社会的特性について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 人間の性と生殖をめぐる諸問題に関する看護の役割について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) 母子保健の動向及び母性の健康を守る制度や法律について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 母性の健康に影響を及ぼす倫理・環境要因について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) Reproductive Healthを取り巻く家族・社会状況・国際状況について理解できる。また、それらを踏まえた母性看護の課題について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 母性看護の意義を理解し、対象となる女性のセルフケア能力を基本とした援助について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) 	<ol style="list-style-type: none"> 母性看護の特徴・発達段階と身体的・心理的・社会的特性について概ね説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 人間の性と生殖をめぐる諸問題に関する看護の役割について概ね説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) 母子保健の動向及び母性の健康を守る制度や法律について概ね説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 母性の健康に影響を及ぼす倫理・環境要因について概ね説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) Reproductive Healthを取り巻く家族・社会状況・国際状況について、また、それらを踏まえた母性看護の課題について理解できる。(人間科学的・社会医学的知識) 母性看護の意義を理解し、対象となる女性のセルフケア能力を基本とした援助について考えられることができる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発)

科目名称	科目区分	学年	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
母性看護学援助論	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	2	2	妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の経過を理解し、各時期において対象に起こる変化や適応状態をアセスメントし、母性看護の対象に関わる基本的姿勢と基礎的技術を学ぶ。また対象とその家族の持つ課題や健康問題について理解し、周産期が正常に経過し、異常に逸脱しないよう提供されるケアについて、対象自身のセルフケアの能力を活かした援助の基本的知識、技術、態度を修得する。	1. 妊娠期の全身の変化および生殖器の変化を理解し、妊婦が妊娠期の心身の変化に適応し、母・胎児ともに健康で快適な生活を送り、セルフケア能力を活かした援助について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (アセスメント力、実践力) (社会資源の活用・開発) 2. 分娩の機序を理解でき、母・胎児が安全かつ安楽に分娩期を過ごせる援助について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (アセスメント力、実践力) 3. 産褥期における全身・生殖器の復旧過程と泌乳のメカニズムが理解でき、産褥期の課題につながるセルフケア能力を活かした援助を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (アセスメント力、実践力) (社会資源の活用・開発) 4. 新生児の健康状態・発育状態を理解し、胎外生活への適応を円滑に行える環境を整えること、援助について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (アセスメント力、実践力) (社会資源の活用・開発) 5. 妊娠・分娩・産褥・新生児の正常から逸脱して起こりやすい異常について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 6. 周産期における母性看護の対象に必要な看護援助について、修得した知識を統合して主体的に学習し、自らの課題を見出すことができる。(コミュニケーション能力、看護技術) (多職種・多機関連携) (アセスメント力、実践力)	1. 妊娠期の全身の変化および生殖器の変化を理解し、妊婦が妊娠期の心身の変化に適応し、母・胎児とともに健康で快適な生活を送り、セルフケア能力を活かした援助について理解できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (アセスメント力、実践力) (社会資源の活用・開発) 2. 分娩の機序を理解でき、母・胎児が安全かつ安楽に分娩期を過ごせる援助について理解できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (アセスメント力、実践力) 3. 産褥期における全身・生殖器の復旧過程と泌乳のメカニズムが理解でき、産褥期の課題につながるセルフケア能力を活かした援助を理解できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (アセスメント力、実践力) (社会資源の活用・開発) 4. 新生児の健康状態・発育状態を理解し、胎外生活への適応を円滑に行える環境を整えること、援助について理解できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (アセスメント力、実践力) (社会資源の活用・開発) 5. 妊娠・分娩・産褥・新生児の正常から逸脱して起こりやすい異常について理解できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 6. 周産期における母性看護の対象に必要な看護援助について学習した知識を統合し、自らの課題について考えることができる。(コミュニケーション能力、看護技術) (多職種・多機関連携) (アセスメント力、実践力)
母性看護学実習	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	3・4	2	妊娠・分娩・産褥期における母性および胎児・新生児におけるウェルネスレベルの看護過程の展開を学習する。妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期における事例に基づき、計画立案までの一連の看護過程を展開でき、展開された看護過程を評価できる能力を養う。また、妊娠・分娩・産褥・新生児期をアセスメントするに必要な観察のポイントが説明できるようにするとともに、健康診査を実施するための情報収集の項目・方法を述べることができ、コミュニケーション能力を高めるためのフィジカルアセスメントを実施し、看護ケアを実践する。	1. 妊娠・分娩・産褥経過および新生児の生理的経過を理解し、各時期に必要な良的・悪質的な援助を実践できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) 2. 妊婦・産婦・褥婦および新生児への看護に必要な情報を収集・分析し、看護過程の展開ができる。(コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) 3. 母子とその家族との関係・退院後の生活について理解し、母子保健活動における関連機関の役割と社会資源の活用について対象者へ提供できる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) 4. 実習を通して生命の重要性や自己の母性および生命の尊厳について理解し、専門職としての倫理的責務について説明できる。(倫理観、自律性) 5. 実習を通して母性看護活動を担う専門職の一員としての姿勢や態度を説明できる。(倫理観、自律性) (多職種・多機関連携) (チームワーク、リーダーシップ)	1. 妊娠・分娩・産褥経過および新生児の生理的経過と各時期に必要な援助の実際を理解できる。自然科学的・臨床医学的知識 (社会資源の活用・開発) (アセスメント力、実践力) 2. 妊婦・産婦・褥婦および新生児への看護に必要な情報を収集・分析し、看護過程の展開を理解できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) 3. 母子とその家族との関係・退院後の生活について理解し、母子保健活動における関連機関の役割と社会資源の活用について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) 4. 実習を通して生命の重要性や自己の母性および生命の尊厳について理解し、専門職としての倫理的責務について説明できる。(倫理観、自律性) 5. 実習を通して母性看護活動を担う専門職の一員としての姿勢や態度を概ね説明できる。(倫理観、自律性) (多職種・多機関連携) (チームワーク、リーダーシップ)
精神看護学援助演習	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	3	1	精神に機能障がいをもつ人に必要な治療的介入や看護技術、法律・制度などを踏まえた上で、実際の演習やグループワーク等を通して学ぶ。またコミュニケーション技術については、ロールプレイングを行い、プロセスレコードに記録すること、自己の振り返りを行い、自己洞察に繋がるよう学びを深めることができる。看護過程の展開については、事例を用いて学習を深め、精神機能に障がいをもつ人とその家族に必要な看護、支援について、その人がその人らしく生活を送ることができるといった視点から必要な支援を実践することができる。	1.精神障がい者に対して必要な看護を提供する際に、人権に対する高い倫理観を持ち、安全に配慮した的確なケアの必要性を説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (多職種・他機関連携) 2.精神に機能障がいをもつ人の健康問題について、事例を用いて看護過程を展開でき、根拠に基づいた看護援助を計画することができる。(コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) (社会資源の活用・開発) 3.精神障がい者の家族の健康レベルや生活を理解し、必要な社会資源の活用について説明することができる。(コミュニケーション能力、看護技術) (多職種・多機関連携) (アセスメント力、実践力) (社会資源の活用・開発) (チームワーク、リーダーシップ) 4.精神看護の対象となる人々と適切な援助的コミュニケーションをとることができる。(コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力)	1.精神障がい者に対して必要な看護を提供する際に、人権に対する倫理観を持ち、安全に配慮した的確なケアの必要性を概ね説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (多職種・他機関連携) 2.精神に機能障がいをもつ人の健康問題について、事例を用いて看護過程を展開でき、根拠に基づいた看護援助を概ね計画することができる。(コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) (社会資源の活用・開発) 3.精神障がい者の家族の健康レベルや生活を理解し、必要な社会資源の活用について概ね説明することができる。(コミュニケーション能力、看護技術) (多職種・多機関連携) (アセスメント力、実践力) (社会資源の活用・開発) (チームワーク、リーダーシップ) 4.精神看護の対象となる人々と援助的コミュニケーションを概ねとることができる。(コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力)
精神看護学概論	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	2	1	人間の精神機能の理解を基盤に、健全なこころ(精神)の発達とそれに影響を及ぼす要因及び精神の危機的状況について理解を深めることができる。また、あらゆるライフステージにおいて、健康な精神生活を支えるための看護の意義と目的、方法を学ぶ。さらに、精神保健の歴史の変遷から人権を踏まえた処遇のあり方を考え、精神医療に関連する法律や精神科看護をとりまく諸問題について理解を深めることができる。	1.こころの発達段階に応じたこころの健康について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 2.成長発達に応じた精神の発達課題について理解し、心理社会的側面との関係を説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 3.健康な精神生活を支えるための看護の意義と目的、対象、方法を説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) 4.精神保健の歴史や法律などを学び、精神看護を取り巻く諸問題について理解を深める。(人間科学的・社会医学的知識) 5.精神医療・看護についての倫理的問題について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・他機関連携) 6.精神看護学を学ぶことの意味を理解して主体的に学習し、自身の学習課題を説明できる。(人間科学的・社会医学的知識)	1.こころの発達段階に応じたこころの健康について概ね説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 2.成長発達に応じた精神の発達課題について理解し、心理社会的側面との関係を概ね説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 3.健康な精神生活を支えるための看護の意義と目的、対象、方法を概ね説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・他機関連携) 4.精神保健の歴史や法律などを学び、精神看護を取り巻く諸問題について概ね説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 5.精神医療・看護についての倫理的問題について概ね説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) 6.精神看護学を学ぶことの意味を理解して、自身の学習課題を概ね説明できる。(人間科学的・社会医学的知識)
精神看護学援助論	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	2	2	人間生活と精神機能との関係を理解し、精神機能の障がい及び日常生活および身体への影響について看護の視点から援助法の知識を学び理解を深めることができる。また、精神機能に障がいをもつ人とその家族が抱える健康問題について、代表的な精神疾患の知識を基盤に看護事例を取り上げ、その人らしいQOLを目標に、精神看護の技術を活用し、看護の方向性を考えることができる。特に、精神看護学領域で用いられる看護理論について学び、事例を通して看護過程の展開について理解をする。さらに、看護師自身のメンタルヘルス、ストレスマネジメントを学び精神障がい者のみならずあらゆる世代の方がたの心理社会的側面からの精神保健(メンタルヘルス)について知識を習得する。	1.精神の障がいによる日常生活および身体に及ぼす影響を説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) (知識、理解、態度) 2.自身の発達段階に応じた精神疾患の症状のアセスメントの方法を説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) 3.精神障がい者の精神疾患や症状のアセスメントの評価から、倫理的に配慮した援助方法を説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) (多職種・他機関連携) (社会資源の活用・開発) 4.精神科における薬物療法や精神療法および発症などについて説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) (多職種・多機関連携) 5.地域精神医療福祉や看護およびストリクスについて説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) (多職種・他機関連携) (社会資源の活用・開発) 6.保健医療福祉チームと関係性を理解し、連携・協働して当事者のニーズや状況に対応した看護の役割を説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) (多職種・他機関連携) (社会資源の活用・開発)	1.精神の障がいによる日常生活および身体に及ぼす影響を概ね説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) 2.自身の発達段階に応じた精神疾患の症状のアセスメントの方法を概ね説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) (多職種・他機関連携) (社会資源の活用・開発) 3.精神障がい者の精神疾患や症状のアセスメントの評価から、倫理的に配慮した援助方法を概ね説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) (多職種・他機関連携) (社会資源の活用・開発) 4.精神科における薬物療法や精神療法および発症などについて概ね説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) (多職種・多機関連携) 5.地域精神医療福祉や看護およびストリクスについて概ね説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) (多職種・他機関連携) (社会資源の活用・開発) 6.保健医療福祉チームと関係性を理解し、連携・協働して当事者のニーズや状況に対応した看護の役割を概ね説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) (多職種・他機関連携) (社会資源の活用・開発)
精神看護学実習	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	3・4	2	精神機能に障がいをもつ入院治療を受けている人、および精神機能に障がいをもつ地域で生活している人に必要な看護について具体的に学び、精神看護の実践が行える基礎知識、技術を修得する。また、精神機能に障がいをもつ人とのかわりを通して、コミュニケーション技術について学びを深め、さらにプロセスレコードを用いて自己を振り返り、自己洞察について理解を深める。さらに、精神科におけるチーム医療の意義を理解し、看護の役割を学習する。	1. 精神に障がいをもつ人とのかわりやコミュニケーションを通して対象者への倫理的配慮や自身の自己洞察を深めることができる。(倫理観、自律性) (コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) 2. 精神障がい者への看護に必要な精神症状や治療についての情報を収集・分析し、看護過程の実践ができる。(コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) 3. チームカンファレンスを通じて精神科におけるチーム医療の意義を理解し、看護の役割を理解できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) (チームワーク、リーダーシップ) 4. 精神障がい者とその家族との関係や退院後の生活について理解し、必要な社会資源の活用について対象者へ説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (多職種・多機関連携) (アセスメント力、実践力) (社会資源の活用・開発) (チームワーク、リーダーシップ) 5. 退院後の地域生活の定着に必要なクライシスプランを患者と一緒に作成し、保健医療福祉チームと共有できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) (社会資源の活用・開発) (チームワーク、リーダーシップ) 6. 実習を通して知識を統合するために主体的に学習し、自身の学習課題が挙げられるとともに、課題解決の方法について説明できる。(倫理観、自律性) (コミュニケーション能力、看護技術) (多職種・他機関連携) (アセスメント力、実践力) (社会資源の活用・開発) (チームワーク、リーダーシップ)	1. 精神に障がいをもつ人とのかわりやコミュニケーションを通して対象者への倫理的配慮や自身の自己洞察を概ね深めることができる。(倫理観、自律性) (コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) 2. 精神障がい者への看護に必要な精神症状や治療についての情報を収集・分析し、看護過程の実践が概ねできる。(コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) 3. チームカンファレンスを通じて精神科におけるチーム医療の意義を理解し、看護の役割を概ね理解できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) (チームワーク、リーダーシップ) 4. 精神障がい者とその家族との関係や退院後の生活について理解し、必要な社会資源の活用について対象者へ概ね説明できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (多職種・多機関連携) (アセスメント力、実践力) (社会資源の活用・開発) (チームワーク、リーダーシップ) 5. 退院後の地域生活の定着に必要なクライシスプランを患者と一緒に概ね作成し、保健医療福祉チームと共有できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) (社会資源の活用・開発) (チームワーク、リーダーシップ) 6. 実習を通して知識を統合するために主体的に学習し、自身の学習課題が挙げられるとともに、課題解決の方法について概ね説明できる。(倫理観、自律性) (コミュニケーション能力、看護技術) (多職種・多機関連携) (アセスメント力、実践力) (社会資源の活用・開発) (チームワーク、リーダーシップ)

科目名称	科目区分	学年	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
地域看護学援助演習	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	2	1	千代田区の特定期域を対象とし、既存資料の分析、地区調査、住民・キーパソンのインタビューを通じて、地域の特性をアセスメントし、顕在的・潜在的健康課題を査定する地域看護診断の方法を実践的に修得するとともに、住民や多職種多機関と連携しながら課題に応じた支援を行う計画立案に必要な基礎的能力を修得する。	1. コミュニティ・コアが、地域生活の中で目指す姿について、具体的に述べることができる。(人間科学的・社会医学的知識) 2. コミュニティ・コアと、それを取り巻くサブシステムの現状について、既存資料、地区調査、インタビューから情報を収集し、アセスメントすることができる。(人間科学的・社会医学的知識)(多職種・多機関連携)(アセスメント力、実践力)(社会資源の活用・開発) 3. コミュニティ・コアの目指す姿と現状のギャップから、地域の健康課題を具体化し、地域の特徴を踏まえた改善策を提案することができる。(人間科学的・社会医学的知識)(多職種・多機関連携)(アセスメント力、実践力)(社会資源の活用・開発) 4. 地域看護診断の結果と改善策について、論理的な結びつきを明確にしながら発表・質疑応答を行うことができる。(コミュニケーション能力、看護技術) 5. 演習全体を通じて実践的理解を深め、人々のQOL・健康と地域のサブシステムの関係、並びに住民・多機関と連携して行う地域看護の役割について、概ね自身の言葉で述べることができる。(人間科学的・社会医学的知識)(多職種・多機関連携)(社会資源の活用・開発) 6. 演習全体を通じて、チームの状況を踏まえつつ、自身の目指すリーダーシップを成長させることができる。(チームワーク、リーダーシップ)	1. コミュニティ・コアが、地域生活の中で目指す姿について、自分なりに述べるることができる。(人間科学的・社会医学的知識) 2. コミュニティ・コアと、それを取り巻くサブシステムの現状について、既存資料、地区調査、インタビューから情報を収集し、大まかに捉えることができる。(人間科学的・社会医学的知識)(多職種・多機関連携)(アセスメント力、実践力)(社会資源の活用・開発) 3. コミュニティ・コアの目指す姿と現状のギャップから、地域の健康課題を考え、自分なりに改善策を提案することができる。(人間科学的・社会医学的知識)(多職種・多機関連携)(アセスメント力、実践力)(社会資源の活用・開発) 4. 地域看護診断の結果と改善策について、発表・質疑応答を行うことができる。(コミュニケーション能力、看護技術) 5. 演習全体を通じて実践的理解を深め、人々のQOL・健康と地域のサブシステムの関係、若しくは住民・多機関と連携して行う地域看護の役割について、概ね自身の言葉で述べることができる。(人間科学的・社会医学的知識)(多職種・多機関連携)(社会資源の活用・開発) 6. 演習全体を通じて、自身の目指すリーダーシップを成長させるよう努力することができる。(チームワーク、リーダーシップ)
在宅看護概論	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	2	1	在宅療養者と家族の生活の質の向上を支援する看護実践の基盤となる、在宅看護の概念や特性、理念、対象となる療養者・家族と地域社会の関係性、対象を支える社会資源の役割、並びに地域包括ケアシステムについて学習する。また、在宅看護の援助の基本となるケアマネジメント及び継続看護・退院支援、さらに、在宅看護の倫理を学習することにより、地域包括ケアシステムにおける看護職の役割について考察する。	1. 在宅ケア・在宅看護を取り巻く社会的背景を踏まえ、在宅看護学を学習し、看護実践に活用する意義が理解できる。(人間科学的・社会医学的知識) 2. 在宅看護の理念について、対象と実践の特質と結びつけて考察し、説明することができる。(人間科学的・社会医学的知識) 3. 在宅療養を支える制度や社会資源を活用しながら在宅療養者とその家族を支援する基盤となるケアマネジメントの基礎が説明できる。(多職種・多機関連携)(社会資源の活用・開発) 4. 在宅看護の倫理の特質を理解し、地域包括ケアシステムにおける看護職の役割について理解し、自己の考えを述べることができる。(倫理観・自律性)	1. 在宅ケア・在宅看護を取り巻く社会的背景を踏まえ、在宅看護学を学習し、看護実践に活用する意義が理解できる。(人間科学的・社会医学的知識) 2. 在宅看護の理念について、対象と実践の特質と結びつけることができる。(人間科学的・社会医学的知識) 3. 在宅療養を支える制度や社会資源を活用しながら在宅療養者とその家族を支援する基盤となるケアマネジメントの基礎が理解できる。(多職種・多機関連携)(社会資源の活用・開発) 4. 在宅看護の倫理の特質を理解し、地域包括ケアシステムにおける看護職の役割について理解することができる。(倫理観・自律性)
在宅看護援助論	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	2	2	疾病や障害を持ちながら地域で暮らす在宅療養者とその家族を生活者としてとらえ、生活の質を維持・向上するための基本的な支援方法(食事・排泄・清潔・移動等の日常生活行動の支援および医療的支援)について、アセスメントおよび多職種連携・社会資源活用を含めて学習する。また、在宅看護において特徴的な対象や状況を取り上げ、支援の展開方法を学習する。	1. 在宅療養者を生活者として捉えるための視点と1単位としての家族のアセスメントと援助方法を具体的に述べることができる。(アセスメント力、実践力)(コミュニケーション能力、看護技術)(多職種・多機関連携)(社会資源の活用・開発) 2. 在宅看護における食事・排泄・清潔・移動等の日常生活行動および褥瘡予防・ケアに関するアセスメントと援助方法を具体的に述べることができる。(アセスメント力、実践力)(コミュニケーション能力、看護技術)(多職種・多機関連携)(社会資源の活用・開発) 3. 在宅療養者の呼吸に関する医療的ケアの具体的方法を述べることができるとともに、在宅療養者の立場から生活上の困難を挙げ、必要な支援を提案できる。(アセスメント力、実践力)(コミュニケーション能力、看護技術)(多職種・多機関連携)(社会資源の活用・開発) 4. 在宅療養者および在宅終末期療養者について対象の特性に応じた看護の特徴と援助方法を具体的に述べることができる。(アセスメント力、実践力)(コミュニケーション能力、看護技術)(多職種・多機関連携)(社会資源の活用・開発) 5. 高齢者虐待の予防のための在宅ケアシステムと在宅看護における対応について具体的に述べることができる。(アセスメント力、実践力)(コミュニケーション能力、看護技術)(多職種・多機関連携)(社会資源の活用・開発)	1. 在宅療養者を生活者として捉えるための視点と1単位としての家族のアセスメントと援助方法について基本的事項を述べることができる。(アセスメント力、実践力)(コミュニケーション能力、看護技術)(多職種・多機関連携)(社会資源の活用・開発) 2. 在宅看護における食事・排泄・清潔・移動等の日常生活行動および褥瘡予防・ケアに関するアセスメントと援助方法について基本的事項を述べることができる。(アセスメント力、実践力)(コミュニケーション能力、看護技術)(多職種・多機関連携)(社会資源の活用・開発) 3. 在宅療養者の呼吸に関する医療的ケアの方法について基本的事項を述べることができるとともに、在宅療養者の立場から生活上の困難を挙げることができる。(アセスメント力、実践力)(コミュニケーション能力、看護技術)(多職種・多機関連携)(社会資源の活用・開発) 4. 在宅療養者および在宅終末期療養者について対象の特性に応じた看護の特徴と援助方法を具体的に述べることができる。(アセスメント力、実践力)(コミュニケーション能力、看護技術)(多職種・多機関連携)(社会資源の活用・開発) 5. 高齢者虐待の予防のための在宅ケアシステムと在宅看護における対応について基本的事項を述べることができる。(アセスメント力、実践力)(コミュニケーション能力、看護技術)(多職種・多機関連携)(社会資源の活用・開発)
在宅看護援助演習	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	3	1	在宅看護の看護過程と看護ケア及びケアマネジメントを展開する方法について、在宅看護の代表的な対象の特性と発達段階を踏まえたアセスメント、支援・評価計画立案の一連のプロセスを学習する。また、在宅看護における家庭訪問技術、コミュニケーション技術の基本を修得し、在宅看護とケアマネジメントの実践方法への理解を深める。	1. 在宅看護の代表的な対象について、その特性と発達段階を踏まえ、必要な情報を収集し、アセスメントが実施し、説明することができる。(アセスメント力、実践力)(コミュニケーション能力、看護技術) 2. 在宅看護の代表的な対象について、その特性と発達段階を踏まえ、看護ケアとケアマネジメントの実施計画並びに評価計画を立案し、説明することができる。(アセスメント力、実践力)(コミュニケーション能力、看護技術)(社会資源の活用・開発) 3. 訪問看護における家庭訪問及びコミュニケーション技術の基本を習得することができる。(コミュニケーション能力、看護技術) 4. 在宅看護とケアマネジメント実践の原則と方法への理解を深め、療養者・家族を支援するチームメンバーとその役割を具体的に説明できる。さらに、チーム全体の機能とチーム内での看護職の役割を考察することができる。(アセスメント力、実践力)(社会資源の活用・開発)(多職種・多機関連携)(チームワーク、リーダーシップ)(研究能力・自己研鑽)	1. 在宅看護の代表的な対象について、その特性と発達段階を踏まえ、必要な情報を収集し、アセスメントが実施できる。(アセスメント力、実践力)(コミュニケーション能力、看護技術) 2. 在宅看護の代表的な対象について、その特性と発達段階を踏まえ、看護ケアとケアマネジメントの実施計画並びに評価計画を立案することができる。(アセスメント力、実践力)(コミュニケーション能力、看護技術)(社会資源の活用・開発) 3. 訪問看護における家庭訪問及びコミュニケーション技術の基本を習得することができる。(コミュニケーション能力、看護技術) 4. 在宅看護とケアマネジメント実践の原則と方法への理解を深め、療養者・家族を支援するチームメンバーを挙げることができる。(アセスメント力)(社会資源の活用・開発)(多職種・多機関連携)(チームワーク、リーダーシップ)(研究能力・自己研鑽)
公衆衛生看護展開論	看護学部 専門教育科目 専門基幹科目	3	2	地域で生活する個人・家族・集団のライフサイクルと健康課題に応じた公衆衛生看護の展開方法について学習し、各分野で展開される保健福祉事業とその法的根拠について理解する。加えて、個人・家族の主要な支援技術として、健康診査と家庭訪問の基本的技術を修得し、その展開方法について説明できるようになることを目標とする。	1. 公衆衛生看護の各分野で展開される公衆衛生看護活動と法律・施策の関係について説明することができる。(人間科学的・社会医学的知識) 2. 公衆衛生看護活動における保健師と市町村の役割について説明することができる。(人間科学的・社会医学的知識) 3. 健康診査・家庭訪問における基本的技術を修得する。(自然科学的・臨床医学的知識)(人間科学的・社会医学的知識)(コミュニケーション能力、看護技術)(アセスメント力、実践力)(社会資源の活用・開発)(倫理観、自律性) 4. 健康診査・家庭訪問から継続支援を展開する方法について説明することができる。(自然科学的・臨床医学的知識)(アセスメント力、実践力)(多職種・多機関連携)(社会資源の活用・開発)(倫理観、自律性) 5. 個人・家族の支援と、集団支援、地域支援の関係について、具体例をあげて説明することができる。(多職種・多機関連携)(社会資源の活用・開発)(アセスメント力、実践力)(コミュニケーション能力、看護技術)(チームワーク、リーダーシップ)(研究能力、自己研鑽) 6. 公衆衛生看護活動において、保健師に求められる姿勢、態度について考えることができる。(チームワーク、リーダーシップ)(研究能力、自己研鑽)	1. 公衆衛生看護の各分野で展開される公衆衛生看護活動と法律・施策の関係について概ね説明することができる。(人間科学的・社会医学的知識) 2. 公衆衛生看護活動における保健師と市町村の役割について概ね説明することができる。(人間科学的・社会医学的知識) 3. 健康診査・家庭訪問における基本的技術を概ね修得する。(自然科学的・臨床医学的知識)(人間科学的・社会医学的知識)(コミュニケーション能力、看護技術)(アセスメント力、実践力)(社会資源の活用・開発)(倫理観、自律性) 4. 健康診査・家庭訪問から継続支援を展開する方法について概ね説明することができる。(自然科学的・臨床医学的知識)(人間科学的・社会医学的知識)(アセスメント力、実践力)(多職種・多機関連携)(社会資源の活用・開発)(倫理観、自律性) 5. 個人・家族の支援と、集団支援、地域支援の関係について、説明することができる。(多職種・多機関連携)(社会資源の活用・開発)(アセスメント力、実践力)(コミュニケーション能力、看護技術)(チームワーク、リーダーシップ)(研究能力、自己研鑽) 6. 公衆衛生看護活動において、保健師に求められる姿勢、態度について考えることができる。(チームワーク、リーダーシップ)(研究能力、自己研鑽)

科目名称	科目区分	学年	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
				地域看護学の重要な実践分野である、在宅と地域（公衆衛生）における看護実践を通じて、地域看護実践に必要な基礎的能力と態度を身につけるとともに、地域看護の特質について体験的に理解を深める。 実習は、訪問看護ステーション実習4日間、地域包括支援センター実習4日間、学内実習2日間で構成される。詳細は実習要項に記載する。	<訪問看護実習> 1. 訪問看護師が実践するケアの目的、意義と、個別性に応じたケアの展開方法を体験を踏まえて説明できる。（自然科学的・臨床医学的知識）（人間科学的・社会医学的知識）（コミュニケーション能力、看護技術） 2. 訪問看護師が多職種多機関と行う連携の実際と、連携において訪問看護師に求められる役割について体験を踏まえて説明できる。（多職種・多機関連携）（コミュニケーション能力、看護技術） 3. 在宅療養者・家族の心身の状態、生活状況とその意向について、多角的に情報収集し、治療的セルフケアデマンド（必要としているセルフケア要件）を査定し、説明することができる。（自然科学的・臨床医学的知識）（人間科学的・社会医学的知識）（アセスメント力、実践力）（コミュニケーション能力、看護技術） 4. 在宅療養者のセルフケア能力（セルフケア行動力）と介護者の介護力や社会資源によるサポート状況（依存的ケア行動力）を把握し、満たされない治療的セルフケアデマンド（セルフケア不足）を査定し、説明することができる。（アセスメント力、実践力）（社会資源の活用・開発）（多職種・多機関連携） 5. 看護過程を展開する対象の満たされない治療的セルフケアデマンド（セルフケア不足）に対して行うべき看護ケア（看護行為）の種類（代行、指導、教育、支持、環境調整（ケアマネジメント））とその組み合わせを考え、在宅療養者・家族の個別性に応じた展開方法を計画し、説明することができる。（アセスメント力、実践力）（社会資源の活用・開発）（多職種・多機関連携）（チームワーク、リーダーシップ） 6. 在宅ケアにおける訪問看護師の役割を理解し、それを踏まえて、在宅看護実践に必要な基礎的知識・技術・態度を身につけることができる。（倫理観、自律性）（研究能力、自己研鑽）	<訪問看護実習> 1. 訪問看護師が実践するケアの目的、意義と、個別性に応じたケアの展開方法を体験を踏まえて説明できる。（自然科学的・臨床医学的知識）（人間科学的・社会医学的知識）（コミュニケーション能力、看護技術） 2. 訪問看護師が多職種多機関と行う連携の実際と、連携において訪問看護師に求められる役割について体験を踏まえて説明できる。 3. 在宅療養者・家族の心身の状態、生活状況とその意向について、多角的に情報収集し、治療的セルフケアデマンド（必要としているセルフケア要件）を査定することができる。（多職種・多機関連携）（コミュニケーション能力、看護技術） 4. 在宅療養者のセルフケア能力（セルフケア行動力）と介護者の介護力や社会資源によるサポート状況（依存的ケア行動力）を把握し、満たされない治療的セルフケアデマンド（セルフケア不足）を査定し、説明することができる。（セルフケア不足）を査定し、説明することができる。（アセスメント力、実践力）（社会資源の活用・開発）（多職種・多機関連携） 5. 看護過程を展開する対象の満たされない治療的セルフケアデマンド（セルフケア不足）に対して行うべき看護ケア（看護行為）の種類（代行、指導、教育、支持、環境調整（ケアマネジメント））とその組み合わせを考え、在宅療養者・家族の個別性に応じた展開方法を計画することができる。（アセスメント力、実践力）（社会資源の活用・開発）（多職種・多機関連携）（チームワーク、リーダーシップ） 6. 在宅ケアにおける訪問看護師の役割を理解し、それを踏まえて、在宅看護実践に必要な基礎的知識・技術・態度を身につけることができる。（倫理観、自律性）（研究能力、自己研鑽）
地域在宅看護学実習	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	3・4	2		<地域包括支援センター実習> 1. 対象地域の特性を把握し、そこから生じる地域の健康課題と展開されている支援の関係について体験的に理解する。（人間科学的・社会医学的知識）（コミュニケーション能力、看護技術） 2. 地域住民の健康状態の各段階（元気な人から要介護状態の人まで）の実際、並びにその段階に応じたニーズと健康課題について体験的に理解する。（人間科学的・社会医学的知識）（アセスメント力、実践力） 3. 家庭訪問等の個人・家族を対象に展開される支援の目的、対象像、連携・協働相手の実際、並びに支援者に求められる技術と態度について体験的に理解する。（人間科学的・社会医学的知識）（アセスメント力、実践力）（コミュニケーション能力、看護技術）（多職種・多機関連携） 4. 集団支援を行なう目的、対象像、連携・協働相手の実際、並びに集団の発展段階に応じた支援者の役割について体験的に理解する。（人間科学的・社会医学的知識）（アセスメント力、実践力）（コミュニケーション能力、看護技術）（多職種・多機関連携） 5. 地域全体の健康度を向上させるための活動の実際、並びに活動に関わる人々・機関と看護職の役割について体験的に理解する。（人間科学的・社会医学的知識）（アセスメント力、実践力）（コミュニケーション能力、看護技術）（多職種・多機関連携）（社会資源の活用・開発）（チームワーク、リーダーシップ） 6. 地域包括支援センターの活動の基盤となる理念・理論、法制度への理解を深め、地域看護実践に求められる態度を身につける。（倫理観、自律性）（研究能力、自己研鑽）	<地域包括支援センター実習> 1. 対象地域の特性を把握し、そこから生じる地域の健康課題と展開されている支援の関係について体験的に理解する。（人間科学的・社会医学的知識）（コミュニケーション能力、看護技術） 2. 地域住民の健康状態の各段階（元気な人から要介護状態の人まで）の実際、並びにその段階に応じたニーズと健康課題について体験的に理解する。（人間科学的・社会医学的知識）（アセスメント力、実践力） 3. 家庭訪問等の個人・家族を対象に展開される支援の目的、対象像、連携・協働相手の実際、並びに支援者に求められる技術と態度について体験的に理解する。（人間科学的・社会医学的知識）（アセスメント力、実践力）（コミュニケーション能力、看護技術）（多職種・多機関連携） 4. 集団支援を行なう目的、対象像、連携・協働相手の実際、並びに集団の発展段階に応じた支援者の役割について体験的に理解する。（人間科学的・社会医学的知識）（アセスメント力、実践力）（コミュニケーション能力、看護技術）（多職種・多機関連携） 5. 地域全体の健康度を向上させるための活動の実際、並びに活動に関わる人々・機関と看護職の役割について体験的に理解する。（人間科学的・社会医学的知識）（アセスメント力、実践力）（コミュニケーション能力、看護技術）（多職種・多機関連携）（社会資源の活用・開発）（チームワーク、リーダーシップ） 6. 地域包括支援センターの活動の基盤となる理念・理論、法制度への理解を深め、地域看護実践に求められる態度を身につける。（倫理観、自律性）（研究能力、自己研鑽）
地域看護学概論	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	2	2	地域（コミュニティ）で生活する全ての個人・家族、集団、地域全体を支援の対象とし、多職種多機関並びに住民と協働して健康で暮らしやすい地域づくりを行う地域看護の方法と、その基盤となる理念・理論、並びに支援方法について学修する。また、地域看護の主要な実践4領域である行政・在宅・産業・学校の特性と、各々における保健・看護活動について学修する。これらの学修を通じて地域看護学の基本となる考え方を身につけるとともに、看護実践における地域看護学の学修意義について理解を深める。	1. 地域看護の基盤となる概念、理念、理論について自分の言葉で説明できる。（人間科学的・社会医学的知識）（倫理観、自律性） 2. 地域看護の目的、対象並びに支援方法の特徴を自分の言葉で説明できる。（人間科学的・社会医学的知識）（多職種・多機関連携）（社会資源の活用・開発）（倫理観、自律性） 3. 地域看護の4つの活動領域の特徴と共通性について自分の言葉で説明することができる。（人間科学的・社会医学的知識）（多職種・多機関連携）（社会資源の活用・開発） 4. 地域の健康課題を分析するための情報収集の枠組みを身につけ、情報を整理してみることができる。（人間科学的・社会医学的知識）（社会資源の活用・開発） 5. 自分自身が地域看護学を学習する意義を明確に述べる事ができる。（研究能力、自己研鑽）	1. 地域看護の基盤となる概念、理念、理論について概ね説明できる。（人間科学的・社会医学的知識）（倫理観、自律性） 2. 地域看護の目的、対象並びに支援方法の特徴を概ね説明することができる。（人間科学的・社会医学的知識）（多職種・多機関連携）（社会資源の活用・開発）（倫理観、自律性） 3. 地域看護の4つの活動領域の特徴と共通性について概ね説明することができる。（人間科学的・社会医学的知識）（多職種・多機関連携）（社会資源の活用・開発） 4. 地域の健康課題を分析するための情報収集の枠組みを理解し、情報を整理してみることができる。（人間科学的・社会医学的知識）（社会資源の活用・開発） 5. 自分自身が地域看護学を学習する意義を一つ以上あげることができる。（研究能力、自己研鑽）
看護研究法	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	3	1	看護現象の問題や課題を探索し、看護を発展させていくための看護研究の原理と方法の基本を学ぶ。具体的には、看護における研究の位置づけと意義、研究のプロセス、研究方法、研究の種類、研究計画書の立案を習得する。研究をすすめる上で求められる倫理についても理解し、研究者の行うべきことを学ぶ。研究の科学性、倫理性、オリジナリティを保持するために、文献検索の意義、方法等についても学習する。さらに研究論文の書き方や論文の発表の意義、方法について学び、研究の社会的意義について理解する。	1. 看護研究の種類、目的について説明できる。（研究能力、自己研鑽） 2. 看護研究の各種の方法について説明できる。（研究能力、自己研鑽） 3. 文献の検索方法を理解し、関心のある1文献をクリティークできる。（研究能力、自己研鑽） 4. 研究における倫理的配慮について表現できる。（倫理観、自律性）（研究能力、自己研鑽）	1. 看護研究の種類、目的について概ね説明できる。（研究能力、自己研鑽） 2. 看護研究の各種の方法について概ね説明できる。（研究能力、自己研鑽） 3. 文献の検索方法を概ね理解し、関心のある1文献を要約できる。（倫理観、自律性）（研究能力、自己研鑽）
総合技術演習 (OSCE)	看護学部 専門教育科目 専門基礎科目	3	1	既習の知識・技術および態度を総合し、臨床で実施する頻度の高い基本的な援助について、対象の発達段階・健康状態に合わせて、安全・安楽に、倫理的な原則に基づいて実施するための演習と確認試験を行う。	1. 既習の知識・技術を用いて、臨床で実施する頻度の高い基本的な援助を行うことができる。（自然科学的・臨床医学的知識）（コミュニケーション能力、看護技術） 2. 安全・安楽に加え、倫理的な配慮を行いながら、対象の発達段階・健康状態に合わせた援助を行うことができる。（自然科学的・臨床医学的知識）（アセスメント力、実践力） 3. 自己の臨床能力の課題を明確にし、必要な自己学習に主体的に取り組みすることができる。（自然科学的・臨床医学的知識）（アセスメント力、実践力） 4. 対象の安全・安楽および倫理的な原則に基づいた態度で参加できる。（自然科学的・臨床医学的知識）（倫理観、自律性）	1. 既習の知識・技術を用いて、臨床で実施する頻度の高い基本的な援助を概ね行うことができる。（自然科学的・臨床医学的知識）（コミュニケーション能力、看護技術） 2. 安全・安楽に留意し、倫理的な配慮を行いながら、対象に合わせた援助を概ね行うことができる。（自然科学的・臨床医学的知識）（アセスメント力、実践力） 3. 自己の臨床能力の課題を概ね把握し、自己学習に取り組みすることができる。（自然科学的・臨床医学的知識）（アセスメント力、実践力） 4. 対象の安全・安楽および倫理的な原則に基づいた態度で概ね参加できる。（自然科学的・臨床医学的知識）（倫理観、自律性）
家族看護学	看護学部 専門教育科目 専門展開科目	3	1	家族を看護の対象とする家族看護の考え方を学ぶ科目である。家族を発達する存在として、また、システムとしてとらえるための理論について学び、家族を理解するツールとして、ジェノグラム・エコマップや家族アセスメントモデルについて学修する。現代日本の家族についても、その特徴や社会的背景を概観する。さらに、家族を支援する際の目標設定において重要な「健康な家族」について考え、家族看護過程の特徴を学ぶ。	1. 家族看護における対象理解の方法として、家族周期論的アプローチおよび家族システム論的アプローチについて説明でき、事例において対象となる家族の理解に活用できる。（アセスメント力・実践力）（研究能力、自己研鑽） 2. ジェノグラム・エコマップ、家族アセスメントモデルについて説明でき、事例において、対象となる家族の理解に活用できる。（アセスメント力・実践力）（研究能力、自己研鑽） 3. 家族看護の目標となる「健康な家族」について、家族のストレス対処、家族の機能および構造、といった各視点について説明できる。（アセスメント力・実践力）（研究能力、自己研鑽） 4. 家族看護過程について説明でき、事例において支援の方向性を言語化できる。（アセスメント力・実践力）（研究能力、自己研鑽） 5. 現代日本の家族の特徴、社会的背景について説明できる。（人間科学的・社会医学的知識）（研究能力、自己研鑽） 6. 家族を対象とする看護に関心を持ち、自らの学修課題を見出し、主体的に学修できる。（研究能力、自己研鑽）	1. 家族看護における対象理解の方法として、家族周期論的アプローチおよび家族システム論的アプローチについて概ね説明できる。（アセスメント力・実践力）（研究能力、自己研鑽） 2. ジェノグラム・エコマップについて概ね説明でき、事例において対象となる家族の理解に活用できる。（アセスメント力・実践力）（研究能力、自己研鑽） 3. 家族看護の目標となる「健康な家族」について、家族のストレス対処、家族の機能および構造、といった各視点を用いて概ね説明できる。（アセスメント力・実践力）（研究能力、自己研鑽） 4. 家族看護過程について概ね説明でき、事例において支援の方向性を概ね言語化できる。（アセスメント力・実践力）（研究能力、自己研鑽） 5. 現代日本の家族の特徴、社会的背景について概ね説明できる。（人間科学的・社会医学的知識）（研究能力、自己研鑽） 6. 家族を対象とする看護に関心を持ち、自らの学修課題を見出し、主体的に学修できる。（研究能力、自己研鑽）

科目名称	科目区分	学年	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
災害看護論	看護学部 専門教育科目 専門展開科目	3	1	災害の概念と歴史、その種類と構造について理解し、災害支援体制や災害に関連する法律や政策、施策について学習する。災害サイクル各期における健康障がいの特徴と、災害医療および災害看護の活動の実践について学ぶとともに、災害看護の概念、および活動の実際と課題について学ぶ。	(1) 災害の概念・災害の種類・災害の歴史について要点をまとめて説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (2) 災害に関する法律や政策、施策について理解し、現状と課題が述べられる。(人間科学的・社会医学的知識) (社会資源の活用・開発) (3) 災害サイクルと被災者ニーズ、および、災害医療・災害看護について各期の特徴ふまえて説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (アセスメント力、実践力) (4) 災害時に必要なネットワークについて、関係機関の役割をふまえて説明できる。(多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) (5) 防災・減災の概念を理解し、状況に応じた備えについて説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (社会資源の活用・開発) (6) 遭遇する可能性のある災害への関心を持ち、災害看護について自身を取り組む課題を述べられる。(研究能力、自己研鑽)	(1) 災害の概念・災害の種類・災害の歴史について基本事項が説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (2) 災害に関する法律や政策、施策について基本事項が説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (社会資源の活用・開発) (3) 災害サイクルと被災者ニーズ、および、災害医療・災害看護について基本事項が説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (アセスメント力、実践力) (4) 災害時に必要なネットワークについて基本事項が説明できる。(多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) (5) 災害医療および災害看護について、その役割と活動の実際が説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (社会資源の活用・開発) (6) 防災・減災の概念を理解し、基本的な備えについて説明できる。(思考・判断・表現) (7) 遭遇する可能性のある災害への関心を持ち、災害看護について自身の考えを述べられる。(研究能力、自己研鑽)
看護管理学	看護学部 専門教育科目 専門展開科目	3	1	看護の対象の健康課題に応じて、多職種・多機関と連携・協働し、安全で安心できる看護を提供するための看護管理について学ぶ。 看護管理は管理者だけの概念ではなく、スタッフである看護職も、日々管理の視点を持ち勤務することが求められる。授業においては、保健医療チームの一員として、看護管理が果たすべき役割と管理者としての倫理的な態度について探究する。	1. 看護管理の基本的理論や看護組織について深く理解し、明確に用語の解説ができる。(人間科学的・社会医学的知識) 2. 保健医療チームが協働するために看護管理が果たす役割について深く理解し、自分の考えを明確に述べることができる。(多職種・多機関連携) (チームワーク、リーダーシップ) 3. 患者の権利だけでなく、医療者の権利も擁護する意味や組織の倫理について高い関心を示し、主体的に課題に取り組みることができる。(倫理観、自律性) (研究能力、自己研鑽)	1. 看護管理の基本的理論や看護組織について説明できるが不足も多い。(人間科学的・社会医学的知識) 2. 保健医療チームが協働するために看護管理が果たす役割について理解することができる。(チームワーク、リーダーシップ) (多職種・多機関連携) (チームワーク、リーダーシップ) 3. 患者の権利だけでなく、医療者の権利も擁護する意味や組織の倫理について関心を示し、課題に取り組みすることができる。(倫理観、自律性) (研究能力、自己研鑽)
国際看護論	看護学部 専門教育科目 専門展開科目	2	1	海外における様々な文化的背景を持つ人々への看護の取り組みや課題、および、国内での身近にある異文化/多文化と、看護における取り組みの必要性や現状、課題について知見を深める。グローバル化の中、異文化理解の上に立った看護師の役割と国際的活動の重要性と課題について学び、日本の看護の現状についても国際的な視点で学習する。	1. 海外における看護の取り組みに関連する課題を列挙できる。(人間科学的・社会医学的知識) (研究能力、自己研鑽) 2. 国内において文化的背景の異なる対象者に対する看護に関する課題を説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (研究能力、自己研鑽) 3. 多職種多機関や住民と連携する中で行う看護の国際的活動について理解できる。(多職種・多機関連携) (研究能力、自己研鑽) 4. 身近にある異文化/多文化への関心を高め、今後の日常生活や学修の中で積極的に取り組みごとを決められる。(研究能力、自己研鑽)	1. 海外における看護の取り組みに関連する重要な課題を挙げることができる。(人間科学的・社会医学的知識) (研究能力、自己研鑽) 2. 国内において文化的背景の異なる対象者に対する看護に関する主要な課題を説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (研究能力、自己研鑽) 3. 多職種多機関や住民と連携する中で行う看護の国際的活動について理解を深めることができる。(多職種・多機関連携) (研究能力、自己研鑽) 4. 身近にある異文化/多文化への関心を高め、今後の日常生活や学修の中で取り組むべきことについて考えられる。(研究能力、自己研鑽)
学校保健・産業保健	看護学部 専門教育科目 専門展開科目	3	1	学校保健・産業保健の実践現場における、保健活動の展開方法と今日の課題への対策の実際、および養護教諭並びに産業看護職の活動方法を体験的に学び、学校保健・産業保健の理念、基盤となる法制度、活動の枠組みと展開方法、関係職種との連携、ならびに看護職の役割への理解を深化する。加えて、これらの学修を通じて、自身の看護職としてのキャリア形成について考えることを目的とする。	1. 学校保健のシステムと看護職の活動方法について実践的に理解し、自分の言葉で説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) (研究能力、自己研鑽) 2. 産業保健のシステムと看護職の活動方法について実践的に理解し、自分の言葉で説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) (研究能力、自己研鑽) 3. 学校保健・産業保健における看護職の役割について実践的に理解し、自分の言葉で説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) (研究能力、自己研鑽) 4. 本科目の学習内容を自身の看護実践やキャリアデザインに生かしていく方法について、自分の言葉で説明できる。(研究能力、自己研鑽)	1. 学校保健のシステムと看護職の活動方法について実践的に理解し、概ね説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) (研究能力、自己研鑽) 2. 産業保健のシステムと看護職の活動方法について実践的に理解し、概ね説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) (研究能力、自己研鑽) 3. 学校保健・産業保健における、看護職の役割について実践的に理解し、概ね説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) (研究能力、自己研鑽) 4. 本科目の学習内容を自身の看護実践やキャリアデザインに生かしていく方法について、概ね説明できる。(研究能力、自己研鑽)
エンドオブライフケア論	看護学部 専門教育科目 専門展開科目	4	1	エンドオブライフケアが重視されるようになった背景、並びに概念について理解する。各ライフステージならびに健康段階における生と死について考察する。死のときまで、その人らしい生を支援する多様な看護実践の方法を知る。	1. エンドオブライフケアを必要とする社会的背景、特徴、アドバンスケアプランニングの必要性について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 2. 本人の意向や生命の尊厳を重視した当事者・家族に対する援助の方法を説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (アセスメント力、実践力) (社会資源の活用・開発) 3. 人生の最終段階にある当事者・家族に向き合う際求められる自身の態度を具体的に表現できる。(研究能力、自己研鑽) (倫理観、自律性)	1. エンドオブライフケアを必要とする社会的背景、特徴、アドバンスケアプランニングの必要性の要点を説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 2. 本人の意向や生命の尊厳を重視した当事者・家族に対する援助の方法の基本的事項を説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (アセスメント力、実践力) (社会資源の活用・開発) 3. 人生の最終段階にある当事者に向き合う際求められる自身の態度を表現できる。(研究能力、自己研鑽) (倫理観、自律性)
患者安全	看護学部 専門教育科目 専門展開科目	2	1	看護の対象となる人々を取り巻く環境に潜む危険を把握し、多職種・多機関と連携・協働して、安全な看護を提供する意義について学ぶ。また、基本的用語や事故発生メカニズムについて学び、患者安全のために看護職が担うべき役割や課題について主体的に探究する。	1. 患者安全を学ぶことの重要性について深く理解し、患者安全に関する基本的用語を明確に説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 医療事故のメカニズムを個人・組織・システムの観点から深く理解し、その対応策について明確に説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 3. 医療事故を防止するためのチーム医療について強い関心を示し、明確に説明できる。(多職種・多機関連携) 4. 保健医療福祉において対象者の命と尊厳を守るために、患者安全が果たすべき役割に強い関心を示し、積極的に授業に参加することができる。(倫理観、自律性) (研究能力、自己研鑽)	1. 患者安全を学ぶことの重要性について理解し、患者安全に関する基本的用語を大まかに説明できるが不足を指摘されることが多い。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 医療事故のメカニズムを個人・組織・システムの観点から理解し、その対応策について大まかに説明できるが不足を指摘されることが多い。(自然科学的・臨床医学的知識) 3. 医療事故を防止するためのチーム医療について理解し、大まかに説明できるが不足を指摘されることが多い。(多職種・多機関連携) 4. 保健医療福祉において対象者の命と尊厳を守るために、患者安全が果たすべき役割を理解し、授業に参加することができるが不足を指摘されることが多い。(倫理観、自律性) (研究能力、自己研鑽)
ベシエントフロアマネジメント論	看護学部 専門教育科目 専門展開科目	4	1	地域の資源である病床を効果的に活用し、質の高い医療の提供に繋げるために、医療必要度に合わせてベシエントフロアやベシエントフロアマネジメントにおける看護師の役割を学習する。	1. ベシエントフロアマネジメントの目的と課題を説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) 2. ベシエントフロアマネジメントにおける入院支援部門や病棟の役割と課題を説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) 3. 院内で継続した看護を提供するための方策を考え、自分の言葉で説明できる。(多職種・多機関連携) (研究能力、自己研鑽) 4. ベシエントフロアマネジメントに必要な多職種連携と看護師の役割を説明できる。(多職種・多機関連携) (研究能力、自己研鑽) 5. 質の高い医療の提供に繋げるためのベシエントフロアマネジメントとは何かを説明できる。(倫理観、自律性) (研究能力、自己研鑽)	1. ベシエントフロアマネジメントの目的と課題について基本的な事項を説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) 2. ベシエントフロアマネジメントにおける入院支援部門や病棟の役割と課題について基本的な事項を説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) 3. 院内で継続した看護を提供するための方策を説明できる。(多職種・多機関連携) (研究能力、自己研鑽) 4. ベシエントフロアマネジメントに必要な多職種連携について基本的な事項を説明できる。(多職種・多機関連携) (研究能力、自己研鑽) 5. ベシエントフロアマネジメントとは何かを説明できる。(研究能力、自己研鑽)
がん看護論	看護学部 専門教育科目 専門展開科目	3	1	がん医療を受ける患者とその家族が安心して医療を受けながら生活できるような支援するために、がんの三大治療法を理解し、治療及びがん告知や治療経過で生じる苦痛や苦悩を体験するがんサバイバーへの支援について学習する。	1. がん医療を受ける患者と家族の情状について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (研究能力、自己研鑽) 2. がん治療の副作用及び合併症による身体的苦痛への支援について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (研究能力、自己研鑽) 3. がん告知や治療経過で生じる苦痛や苦悩を体験するがんサバイバーへの支援について説明できる。(倫理観、自律性) (研究能力、自己研鑽) 4. がん患者を中心としたチーム医療と継続看護について説明できる。(多職種・多機関連携) (研究能力、自己研鑽) 5. がん患者とその家族が医療を受けながら安心して生活できるように、がん患者を中心としたチーム医療および継続看護における看護師の役割を自分の言葉で説明できる。(倫理観、自律性) (多職種・多機関連携) (研究能力、自己研鑽)	1. がん医療を受ける患者と家族の情状について基本的な事項を説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (研究能力、自己研鑽) 2. がん治療の副作用及び合併症による身体的苦痛への支援について基本的な事項を説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (研究能力、自己研鑽) 3. がん告知や治療経過で生じる苦痛や苦悩を体験するがんサバイバーへの支援について基本的な事項を説明できる。(倫理観、自律性) (研究能力、自己研鑽) 4. がん患者を中心としたチーム医療と継続看護について基本的な事項を説明できる。(多職種・多機関連携) (研究能力、自己研鑽) 5. がん患者を中心としたチーム医療および継続看護における看護師の役割について基本的な事項を説明できる。(倫理観、自律性) (多職種・多機関連携) (研究能力、自己研鑽)
認知症看護論	看護学部 専門教育科目 専門展開科目	4	1	認知症の初期、軽度期、並びに身体疾患を併存させる障害複合期に求められるコミュニケーションスキル、環境ケア、生活ケアについて理解を深め、認知症の初期、軽度期、並びに身体疾患を併存させる障害複合期に求められる多職種との連携の方法を修得する。	1. 軽度認知障害 (MCI) も含む、アルツハイマー型認知症のプロセスを説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 認知症の重要度に対応したコミュニケーションスキルを説明するとともに、創意工夫しロールプレイに反映できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (研究能力、自己研鑽) 3. 身体疾患で急性期病院に入院する認知症高齢者の安心・安楽を重視する援助の方法と、多職種連携の必要性を説明できる。(倫理観、自律性) (多職種・多機関連携)	1. アルツハイマー型認知症のプロセスを説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) 2. 認知症の重要度に対応したコミュニケーションスキルを説明するとともに、ロールプレイに反映できる。(コミュニケーション能力、看護技術) (研究能力、自己研鑽) 3. 身体疾患で急性期病院に入院する認知症高齢者の安心・安楽を重視する援助の方法の概要と、多職種連携の必要性を説明できる。(倫理観、自律性) (多職種・多機関連携)
リハビリテーション看護論	看護学部 専門教育科目 専門展開科目	2	1	リハビリテーションを必要とする対象者への理解を深め、生活機能障害をもつ人がその人らしい生活を再構築していく過程を支援するための看護について理解する。また、リハビリテーションにおけるチームアプローチやリハビリテーション看護の専門性について理解する。	1. 生活機能障害と対象者の心身へ及ぼす影響について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (研究能力、自己研鑽) 2. 対象者の回復を促進し、生活の再構築を促すための看護援助について説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (研究能力、自己研鑽) 3. リハビリテーションチームの特徴やチームにおける看護職の役割と機能について説明できる。(多職種・多機関連携) (研究能力、自己研鑽)	1. 生活機能障害と対象者の心身へ及ぼす影響について概ね説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (研究能力、自己研鑽) 2. 対象者の回復を促進し、生活の再構築を促すための看護援助について概ね説明できる。(自然科学的・臨床医学的知識) (研究能力、自己研鑽) 3. リハビリテーションチームの特徴やチームにおける看護職の役割と機能について概ね説明できる。(多職種・多機関連携) (研究能力、自己研鑽)

科目名称	科目区分	学年	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
保健指導・健康教育論	看護学部 専門教育科目 専門展開科目	2	1	保健指導・健康教育の基礎となる行動変容を促すための理論・モデルを学修するとともに、保健指導・健康教育の計画立案と実施、評価の一連の展開方法を学ぶ。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主要な保健行動理論・モデルについて理解し、一部活用してみることができ。(人間科学的・社会医学的知識) (アセスメント力・実践力) (研究能力、自己研鑽) 2. 健康教育の計画立案と実施、評価の一連の展開方法について理解し、要点をおさえながら実際に計画立案してみることができ。(人間科学的・社会医学的知識) (アセスメント力・実践力) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) (研究能力、自己研鑽) 3. 保健指導の展開方法と、必要な技術、態度について自分の言葉で説明することができる。(人間科学的・社会医学的知識) (アセスメント力・実践力) (研究能力、自己研鑽) 4. 人々の行動変容を促すために求められる看護職の技術と役割について理解し、主体的に学修することができる。(研究能力、自己研鑽) 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主要な保健行動理論・モデルの活用方法について概ね説明することができる。(人間科学的・社会医学的知識) (アセスメント力・実践力) (研究能力、自己研鑽) 2. 健康教育の計画立案と実施、評価の一連の展開方法について概ね理解し、実際に計画立案してみることができ。(人間科学的・社会医学的知識) (アセスメント力・実践力) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) (研究能力、自己研鑽) 3. 保健指導の展開方法と、必要な技術、態度について概ね説明することができる。(人間科学的・社会医学的知識) (アセスメント力・実践力) (研究能力、自己研鑽) 4. 人々の行動変容を促すために求められる看護職の技術と役割について概ね理解し、主体的に学修することができる。(研究能力、自己研鑽)
公衆衛生看護管理論	看護学部 専門教育科目 専門展開科目	4	1	公衆衛生看護管理における人事管理・人材育成、組織運営・管理、事業管理、予算管理の原則と方法を学修する。また、保健計画、事業計画の策定プロセスと予算の仕組みと、社会資源・地域ケアシステムの開発・管理を通じた地域ケアの質の保証について学び、保健師の役割を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生看護管理における人事管理・人材育成、組織運営・管理、事業管理、予算管理の原則と方法について説明できる。これらの学修を通じて、公衆衛生看護管理の基本となる理念の理解を深化する。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) (コミュニケーション能力、看護技術) (チームワーク・リーダーシップ) (研究能力、自己研鑽) 2. 保健計画、事業計画の策定プロセスと予算の仕組みについて説明することができる。(多職種・多機関連携) (アセスメント力・実践力) (コミュニケーション能力、看護技術) (チームワーク・リーダーシップ) (研究能力、自己研鑽) 3. 社会資源・地域ケアシステムの開発と管理を通じて地域ケアの質保証を行う方法について説明するとともに、保健師の役割を考察することができる。(社会資源の活用・開発) (多職種・多機関連携) (チームワーク・リーダーシップ) (研究能力、自己研鑽) 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生看護管理における人事管理・人材育成、組織運営・管理、事業管理、予算管理の原則と方法について概ね説明できる。これらの学修を通じて、公衆衛生看護管理の基本となる理念の理解を深化する。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) (コミュニケーション能力、看護技術) (チームワーク・リーダーシップ) (研究能力、自己研鑽) 2. 保健計画、事業計画の策定プロセスと予算の仕組みについて概ね説明することができる。(多職種・多機関連携) (アセスメント力・実践力) (コミュニケーション能力、看護技術) (チームワーク・リーダーシップ) (研究能力、自己研鑽) 3. 社会資源・地域ケアシステムの開発と管理を通じて地域ケアの質保証を行う方法について概ね説明でき、その中で、保健師の実施していることを挙げることができる。(社会資源の活用・開発) (多職種・多機関連携) (チームワーク・リーダーシップ) (研究能力、自己研鑽)
健康危機管理論	看護学部 専門教育科目 専門展開科目	4	1	健康危機管理の定義と枠組み、並びに関連法令について学修する。健康危機のうち、災害並びに感染症集団発生を取り上げ、体制整備、発災・発生時の保健所の役割と保健師活動の展開方法について学修する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康危機管理の定義と枠組み、並びに関連法令について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 2. 災害対策、並びに災害発生時における、保健所の役割と保健師活動の展開方法について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) (研究能力、自己研鑽) 3. 演習において、災害対策の体制整備に向けた、地域の状況と予測される被害状況を把握し、必要な予防活動を考えることができる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) (コミュニケーション能力、看護技術) (チームワーク・リーダーシップ) (研究能力、自己研鑽) 4. 演習において、災害発生時の状況把握と現状分析を行い、その結果を報告することができる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) (コミュニケーション能力、看護技術) (チームワーク・リーダーシップ) (研究能力、自己研鑽) 5. 避難所運営演習を通じて、災害時の健康二次被害への理解を深めるとともに、予防活動について検討することができる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) (コミュニケーション能力、看護技術) (チームワーク・リーダーシップ) (研究能力、自己研鑽) 6. 感染症集団発生時における、保健所の役割と保健師活動の展開方法について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) (アセスメント力・実践力) (研究能力、自己研鑽) 7. 積極的疫学調査演習において、感染者の情報収集と感染源・感染経路の探索を行い、感染拡大防止対策を考えることができる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) (アセスメント力・実践力) (コミュニケーション能力、看護技術) (チームワーク・リーダーシップ) (研究能力、自己研鑽) 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康危機管理の定義と枠組み、並びに関連法令について概ね説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) 2. 災害対策、並びに災害発生時における、保健所の役割と保健師活動の展開方法について概ね説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) (研究能力、自己研鑽) 3. 演習において、災害対策の体制整備に向けた、地域の状況と予測される被害状況を把握することができる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) (コミュニケーション能力、看護技術) (チームワーク・リーダーシップ) (研究能力、自己研鑽) 4. 演習において、災害発生時の状況把握を行い、報告することができる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) (コミュニケーション能力、看護技術) (チームワーク・リーダーシップ) (研究能力、自己研鑽) 5. 避難所運営演習を通じて、災害時の健康二次被害への理解を深めることができる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) (コミュニケーション能力、看護技術) (チームワーク・リーダーシップ) (研究能力、自己研鑽) 6. 感染症集団発生時における、保健所の役割と保健師活動の展開方法について概ね説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) (アセスメント力・実践力) (研究能力、自己研鑽) 7. 積極的疫学調査演習において感染者の情報収集と感染源・感染経路の探索を概ね行うことができる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) (アセスメント力・実践力) (コミュニケーション能力、看護技術) (チームワーク・リーダーシップ) (研究能力、自己研鑽)
看護学総合実習	看護学部 専門教育科目 統合科目	4	2	看護の対象となる人々を取り巻く環境(家族、地域の特性、社会資源)を把握し、健康課題に応じて、多職種・多機関と連携、協働して社会資源を活用・開発するための計画を立案することができる。具体的にはこれまでの学修を統合し、臨床実務に即したチーム医療、患者管理、医療安全等を踏まえた看護実践能力を養い、看護師としての自覚と責任を培う。実習場所は、病院、訪問看護ステーション、地域包括支援センター、介護老人福祉施設等とし、学生の関心をもとに調整する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護におけるマネジメントの実践について理解できるようになる。(アセスメント力、実践力) 2. ケアチームの役割やメンバーシップについて理解し、チームに貢献するために求められる基本的能力を身に付ける。(コミュニケーション能力、看護技術) (チームワーク、リーダーシップ) (社会資源の活用・開発) 3. 複数の受け持ち患者について状態の把握ができ、行動における優先順位について判断できるようになる。(コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) 4. 自己の看護観、職業人としての課題について理解できるようになる。(倫理観、自律性) (研究能力、自己研鑽) 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護におけるマネジメントの実践について、その要点を理解できるようになる。(アセスメント力、実践力) 2. ケアチームの役割やメンバーシップについてし、チームに貢献するために求められる基本的能力を概ね身に付けることができる。(コミュニケーション能力、看護技術) (チームワーク、リーダーシップ) (社会資源の活用・開発) 3. 複数の受け持ち患者について状態の把握ができ、行動における優先順位について概ね判断できるようになる。(コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) 4. 自己の看護観、職業人としての課題について、その要点を理解できるようになる。(倫理観、自律性) (研究能力、自己研鑽)

科目名称	科目区分	学年	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
公衆衛生看護学実習	看護学部 専門教育科目 統合科目	4	4	<p>保健所・保健センター等において実習を行い、地域住民のQOL向上と健康なまちづくりを目指し、個人・家族、集団と地域の健康課題に対して、地域住民、関係機関、多職種と連携・協働しながら組織的に支援を行う上で、保健師に必要な知識、技術、態度を身に付ける。</p>	<p>1. 地域看護診断を通して、地域の特性と健康課題をアセスメントし、地域の健康課題を支援するための地区活動計画を立案することができる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) (研究能力、自己研鑽)</p> <p>2. 家庭訪問、健康相談、健康診査への参加、一部実施を通して、対象となる個人/家族の生活と健康状態、並びに発達課題を把握し、顕在化・潜在化した健康課題の優先度を判断し、支援方法を選択する理由について説明することができる。(人間科学的・社会医学的知識) (コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) (研究能力、自己研鑽)</p> <p>3. 健康教育の対象となる集団の健康状態、並びに発達課題と、対象を取り巻く自然・社会環境、社会文化的背景をアセスメントし、対象の健康増進能力を高めるための健康教育を計画、実施、評価することができる。(人間科学的・社会医学的知識) (コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) (多職種・多機関連携) (研究能力、自己研鑽)</p> <p>4. 地区組織活動、自主グループ等へ参加し、保健師による地区組織活動、自主グループ等への支援方法と協働した地域づくりについて実践的に理解を深める。(人間科学的・社会医学的知識) (コミュニケーション能力、看護技術) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) (研究能力、自己研鑽)</p> <p>5. 様々な発達段階、健康課題に対して実施されている保健福祉事業の法的根拠と目的、意義、並びにその中で求められる保健師の支援技術と役割について説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (アセスメント力、実践力) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) (研究能力、自己研鑽)</p> <p>6. 地域の特性と健康課題、並びに住民のニーズにもとづき、法令や自治体の基本計画等との整合性を踏まえて行う、事業化、施策化、社会資源開発、ケアシステム構築等の実際について、関係する会議等への参加や保健師へのインタビューを通じて、実践的に理解を深める。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) (研究能力、自己研鑽)</p> <p>7. 公衆衛生看護活動における多職種・多機関、住民との連携・協働の意義とその中で求められる保健師の役割について説明できる。(多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) (研究能力、自己研鑽)</p> <p>8. 実習全体を通じて、住民並びに関係者の人権とプライバシー権を擁護する姿勢を身に付け、信頼関係構築につながる適切なコミュニケーションを取るとともに、保健師活動の基本理念となる社会的公正と活動の中で生じる倫理的問題について、実践的に理解を深める。(人間科学的・社会医学的知識) (コミュニケーション能力、看護技術) (多職種・多機関連携) (研究能力、自己研鑽)</p>	<p>1. 地域看護診断を通して、地域の特性と健康課題をアセスメントし、地域の健康課題を支援するための地区活動計画の立案に取り組むことができる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) (研究能力、自己研鑽)</p> <p>2. 家庭訪問、健康相談、健康診査への参加、一部実施を通して、対象となる個人/家族の生活と健康状態、並びに発達課題を把握し、顕在化・潜在化した健康課題の優先度を判断し、支援方法を選択する理由について概ね説明することができる。(人間科学的・社会医学的知識) (コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) (研究能力、自己研鑽)</p> <p>3. 健康教育の対象となる集団の健康状態、並びに発達課題と、対象を取り巻く自然・社会環境、社会文化的背景をアセスメントし、対象の健康増進能力を高めるための健康教育の計画、実施、評価に取り組むことができる。(人間科学的・社会医学的知識) (コミュニケーション能力、看護技術) (アセスメント力、実践力) (多職種・多機関連携) (研究能力、自己研鑽)</p> <p>4. 地区組織活動、自主グループ等へ参加し、保健師による地区組織活動、自主グループ等への支援方法と協働した地域づくりの実際について理解することができる。(人間科学的・社会医学的知識) (コミュニケーション能力、看護技術) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) (研究能力、自己研鑽)</p> <p>5. 様々な発達段階、健康課題に対して実施されている保健福祉事業の法的根拠と目的、意義、並びにその中で求められる保健師の支援技術と役割について概ね説明できる。(人間科学的・社会医学的知識) (アセスメント力、実践力) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) (研究能力、自己研鑽)</p> <p>6. 地域の特性と健康課題、並びに住民のニーズにもとづき、法令や自治体の基本計画等との整合性を踏まえて行う、事業化、施策化、社会資源開発、ケアシステム構築等の実際について、関係する会議等への参加や保健師へのインタビューを通じて、理解することができる。(人間科学的・社会医学的知識) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) (研究能力、自己研鑽)</p> <p>7. 公衆衛生看護活動における多職種・多機関、住民との連携・協働の意義とその中で求められる保健師の役割について概ね説明できる。(多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) (研究能力、自己研鑽)</p> <p>8. 実習全体を通じて、住民並びに関係者の人権とプライバシー権を擁護する姿勢を身に付け、信頼関係構築につながる適切なコミュニケーションを取るとともに、保健師活動の基本理念となる社会的公正と活動の中で生じる倫理的問題について理解することができる。(人間科学的・社会医学的知識) (コミュニケーション能力、看護技術) (多職種・多機関連携) (研究能力、自己研鑽)</p>
統合ケア演習	看護学部 専門教育科目 統合科目	4	1	<p>多職種多機関の連携・協働によって一体的・連続的にケアが提供されるために必要な看護の役割を理解し、実践できる能力を身に付ける。具体的には、複数の疾患・健康課題を有する事例、保健・医療・福祉の連携が必要な事例、治療・ケアを受ける場が変化する事例等への看護展開について学修する。</p>	<p>1. 対象者の状況に応じて、踏まえるべき社会的状況や社会保障制度について具体的に説明できるようになる。(社会資源の活用・開発)</p> <p>2. 対象者の状況に応じて、提供する看護の優先順位やスケジュールについて具体的に説明できるようになる。(人間科学的・社会医学的知識) (倫理観、自律性) (アセスメント力、実践力)</p> <p>3. 対象者の状況に応じて、必要な支援とその担い手、ならびに連携・協働における看護職の役割について具体的に説明できるようになる。(倫理観、自律性) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) (チームワーク、リーダーシップ)</p>	<p>1. 対象者の状況を考慮して、踏まえるべき社会的状況や社会保障制度について説明できるようになる。(社会資源の活用・開発)</p> <p>2. 対象者の状況を考慮して、提供する看護の優先順位やスケジュールについて説明できるようになる。(人間科学的・社会医学的知識) (倫理観、自律性) (アセスメント力、実践力)</p> <p>3. 対象者の状況を考慮して、必要な支援とその担い手、ならびに連携・協働における看護職の役割について説明できるようになる。(倫理観、自律性) (多職種・多機関連携) (社会資源の活用・開発) (チームワーク、リーダーシップ)</p>
卒業研究	看護学部 専門教育科目 統合科目	4	2	<p>研究の原理と方法をもとに、看護研究の実際を体験し、研究的思考と態度を学ぶことを目的とする。具体的には、看護に関連するテーマを自ら設定し、データ収集・分析を行い、論文としてまとめ、発表の体験を通してプレゼンテーション力を養うとともに、批判的な思考力を修得する。</p>	<p>1. 看護に関連する研究テーマを自ら適切に設定することができる。(倫理観、自律性)</p> <p>2. 研究テーマに沿って、データ収集・分析し、結果を考察して、結論を導き出すことができる。(倫理観、自律性) (研究能力、自己研鑽)</p> <p>3. 研究内容を論文としてまとめ、発表の体験を通してプレゼンテーション力を養うとともに、批判的な思考力を修得できる。(倫理観、自律性) (研究能力、自己研鑽) (チームワーク、リーダーシップ)</p> <p>4. 研究活動全体を通じて必要な倫理的配慮を行うことができる。(倫理観、自律性)</p>	<p>1. 看護に関連する研究テーマを設定することができる。(倫理観、自律性)</p> <p>2. 研究テーマに沿って、データ収集・分析し、結果を考察することができる。(倫理観、自律性) (研究能力、自己研鑽)</p> <p>3. 研究内容を論文としてまとめ、発表の体験を通してプレゼンテーション力を養う。(倫理観、自律性) (研究能力、自己研鑽) (チームワーク、リーダーシップ)</p> <p>4. 研究活動全体を通じて必要な倫理的配慮を行うことができる。(倫理観、自律性)</p>